

【現代文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8231001	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	木2	平岡隆二		現代文化学系1
8231003	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	金2	伊勢田 哲治		現代文化学系2
8231004	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	金2	伊勢田 哲治		現代文化学系3
8231005	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	木3	杉本 舞		現代文化学系4
8231006	科学哲学科学史	特殊講義	2	後期	水4	喜多 千草		現代文化学系5
8231007	科学哲学科学史	特殊講義	2	前期	集中	田中 泉吏		現代文化学系6
8241001	科学哲学科学史	演習	2	前期	火2	斎藤 光		現代文化学系7
8241002	科学哲学科学史	演習	2	後期	火2	斎藤 光		現代文化学系8
8241003	科学哲学科学史	演習	2	前期	金3	伊勢田 哲治		現代文化学系9
8241004	科学哲学科学史	演習	2	後期	金3	伊勢田 哲治		現代文化学系10
8241005	科学哲学科学史	演習	2	前期	火5	矢田部 俊介		現代文化学系11
8241006	科学哲学科学史	演習	2	後期	火5	矢田部 俊介		現代文化学系12
8241008	科学哲学科学史	演習	2	後期	火2	標葉 隆馬, 喜多千草		現代文化学系13
M383001	科学哲学科学史	演習	2	前期	水4	伊藤 和行, 伊勢田 哲治		現代文化学系14
M383002	科学哲学科学史	演習	2	後期	水4	伊藤 和行, 伊勢田 哲治		現代文化学系15
8931001	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火3	小野沢 透		現代文化学系16
8931002	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史		現代文化学系17
8931003	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史		現代文化学系18
8931004	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己		現代文化学系19
8931005	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志		現代文化学系20
8931006	メディア文化学	特殊講義	2	後期	木3	杉本 舞		現代文化学系21
8931007	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志		現代文化学系22
8931008	メディア文化学	特殊講義	2	前期	集中	森下 達		現代文化学系23
8931009	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月4	松永 伸司		現代文化学系24
8931010	メディア文化学	特殊講義	2	前期	水4	須田 千里		現代文化学系25
8931011	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	須田 千里		現代文化学系26
8931012	メディア文化学	特殊講義	2	前期	火4	奥野 久美子		現代文化学系27
8931013	メディア文化学	特殊講義	2	後期	火4	奥野 久美子		現代文化学系28
8931014	メディア文化学	特殊講義	2	前期	月2	石川 禎浩		現代文化学系29
8931015	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月2	石川 禎浩		現代文化学系30
8931016	メディア文化学	特殊講義	2	後期	月5	石井 香江		現代文化学系31
8931017	メディア文化学	特殊講義	2	後期	水4	喜多 千草		現代文化学系32
8941001	メディア文化学	演習I	2	前期	水3	喜多 千草		現代文化学系33
8941002	メディア文化学	演習I	2	後期	水3	松永 伸司		現代文化学系34
8944001	メディア文化学	演習II	2	前期	月4	村上 衛		現代文化学系35
8944002	メディア文化学	演習II	2	後期	月4	村上 衛		現代文化学系36
8944003	メディア文化学	演習II	2	後期	木2	河瀬 彰宏		現代文化学系37
8944004	メディア文化学	演習II	2	後期	水2	喜多 千草		現代文化学系38
8944005	メディア文化学	演習II	2	前期	火2	山本 昭宏		現代文化学系39
8944006	メディア文化学	演習II	2	後期	火2	山本 昭宏		現代文化学系40
8944007	メディア文化学	演習II	2	前期	月3	伊藤 遊		現代文化学系41
8944008	メディア文化学	演習II	2	後期	火2	標葉 隆馬, 喜多千草		現代文化学系42
8944010	メディア文化学	演習II	2	前期	水2	小泉 俊, 喜多千草		現代文化学系43
8944011	メディア文化学	演習II	2	前期	月3	松田 利彦		現代文化学系44
8944014	メディア文化学	演習II	2	前期	火3	小野沢 透		現代文化学系45
8944015	メディア文化学	演習II	2	前期	火4	塩出 浩之		現代文化学系46
8944017	メディア文化学	演習II	2	前期	月4	井上 明人		現代文化学系47
8946001	メディア文化学	演習IIIA	2	前期	金3, 金4	喜多 千草, 松永 伸司		現代文化学系48
8947001	メディア文化学	演習IIIB	2	後期	金3, 金4	喜多 千草, 松永 伸司		現代文化学系49
M432001	メディア文化学	演習	4	通年	火5	小野沢, 喜多, 塩出, 松永		現代文化学系50
M433001	メディア文化学	演習	2	通年	金2	喜多 千草, 松永 伸司		現代文化学系51

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
8433001	現代史学	特殊講義	2	後期	火3	小野沢 透		現代文化学系52
8433002	現代史学	特殊講義	2	前期	木5	箱田 恵子		現代文化学系53
8433003	現代史学	特殊講義	2	後期	月5	石井 香江		現代文化学系54
8433004	現代史学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史		現代文化学系55
8433005	現代史学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史		現代文化学系56
8433006	現代史学	特殊講義	2	前期	水2	高木 博志		現代文化学系57
8433007	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	高木 博志		現代文化学系58
8433008	現代史学	特殊講義	2	前期	月2	石川 禎浩		現代文化学系59
8433009	現代史学	特殊講義	2	後期	月2	石川 禎浩		現代文化学系60
8433010	現代史学	特殊講義	2	前期	集中	城山 智子		現代文化学系61
8433011	現代史学	特殊講義	2	前期	月3	佐藤 卓己		現代文化学系62
8433012	現代史学	特殊講義	2	後期	水2	帯谷 知可		現代文化学系63
8433013	現代史学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆		現代文化学系64
8433014	現代史学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆		現代文化学系65
8433015	現代史学	特殊講義	2	前期	月2	伊藤 順二		現代文化学系66
8433016	現代史学	特殊講義	2	後期	月2	伊藤 順二		現代文化学系67
8433017	現代史学	特殊講義	2	前期	集中	森下 達		現代文化学系68
8433018	現代史学	特殊講義	2	後期	木4	水谷 智		現代文化学系69
8433019	現代史学	特殊講義	2	前期	月3	福家 崇洋		現代文化学系70
8448001	現代史学	演習II	2	前期	月4	村上 衛		現代文化学系71
8448002	現代史学	演習II	2	後期	月4	村上 衛		現代文化学系72
8448003	現代史学	演習II	2	前期	火3	小野沢 透		現代文化学系73
8448004	現代史学	演習II	2	前期	火4	塩出 浩之		現代文化学系74
8448007	現代史学	演習II	2	前期	月3	松田 利彦		現代文化学系75
8448008	現代史学	演習II	2	前期	火2	山本 昭宏		現代文化学系76
8448009	現代史学	演習II	2	後期	火2	山本 昭宏		現代文化学系77
M415001	現代史学	演習II	2	前期	金5	駒込 武		現代文化学系78
M415002	現代史学	演習II	2	後期	金5	駒込 武		現代文化学系79
8452001	現代史学	演習IIIA	2	前期	金5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学系80
8452002	現代史学	演習IIIB	2	後期	金5	小野沢 透,塩出 浩之		現代文化学系81
M412001	現代史学	演習	4	通年	火5	小野沢,塩出,喜多,松永		現代文化学系82

現代文化学系1

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 平岡 隆二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		東西宇宙観の出会いと交流									
[授業の概要・目的]											
近世日本に伝来した西洋と中国の天文学・宇宙論知識をとりあげ、その理解や利用のあり方を考察することにより、科学史・東西交流史についての理解を深める。後半には、京大が所蔵する関連史料の現地調査に参加し、その整理や取り扱いの方法を学ぶ。											
[到達目標]											
現代とは異なる自然認識とその利用のあり方を、具体的な史料に即して理解する能力を養う。またその特質と意義を、当時の文脈を踏まえつつ俯瞰的に説明する能力を養う。											
[授業計画と内容]											
1．本授業の位置づけ 2・3．近世日本天文学とその史料 4・5．キリシタンと科学伝来 6・7．西学書の舶載と影響 8・9．江戸後期の天文暦学と蘭学 10～14．京大所蔵史料の調査・整理 15．フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点と期末レポート。レポートはこの授業に関連する史料や研究にもとづいて作成すること。											
[教科書]											
使用せず、プリント・PDFを配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 渡辺敏夫『近世日本天文学史』(恒星社厚生閣)											
(関連URL)											
http://hiraoka.zinbun.kyoto-u.ac.jp/											
[授業外学修(予習・復習)等]											
授業で紹介する参考文献を読み、理解・関心を深めておくこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業の実施形態(対面・オンライン・現地調査)について、随時最新情報を確認しておくこと。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系2

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語及び英語
題目		科学哲学入門上級 Advanced Introduction to Philosophy of Science									
【授業の概要・目的】											
<p>この特殊講義においては科学哲学の古典的な論文や基礎的な論文を中心とした講義を通して、科学哲学という分野に入門することをめざします。具体的には、前半ではヘンペル、キッチャー、ファン＝フラッセン、ファインらの古典的な論文を核として、その背景についてレクチャーを行います。後半では、近年注目を集める研究領域からいくつかをピックアップし、関連する基礎文献をリーディングとしつつ、背景や現在の諸問題との関わり（特に日本という文脈での含意）についてレクチャーを行います。こうした文献の読解とレクチャーを通して、科学哲学という分野の広がりを知ってもらうことがこの授業のねらいです。</p> <p>The aim of this special lecture is to introduce the participants into the field of philosophy of science through lectures focusing on classic and basic papers in the field. More concretely, In the first half of the class, we read classic papers of Hempel, Kitcher, van Fraassen, Fine and others. Lectures on the background of the papers will be given. In the latter half of the class, we pick up several areas in philosophy of science that attract attention recently. We read related basic literature and there will be lectures on the background, relationship with contemporary issues (especially implications in Japanese context) of the readings. Through such readings and lectures, this class try to show the breadth of the field of philosophy of science.</p>											
【到達目標】											
<p>科学哲学という分野の主要な課題を説明できるようになる。科学哲学の考え方を現在のさまざまな問題と結びつけることができるようになる。</p> <p>To be able to explain the historical background and basic issues of the field of philosophy of science. To be able to connect ideas in philosophy of science to various contemporary issues.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>授業は日本語と英語で行われます。</p> <p>第一部 科学哲学の古典的諸問題</p> <p>1 科学的説明（4週）</p> <p>2 科学的実在論（3週）</p> <p>第二部 科学哲学のさまざまな基礎的課題</p> <p>3 統計の哲学（3週）</p> <p>4 フェミニスト科学哲学（2週）</p> <p>5 科学的理解（2週）</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

まとめ(1週)

The lectures will be given both in Japanese and English.

Part I Classical Issues of Philosophy of Science

1. Scientific Explanation (3 weeks)
2. Scientific Realism (3 weeks)

Part II Various Basic Issues in Philosophy of Science

- 3 Philosophy of Statistics (3 weeks)
- 4 Feminist Philosophy of Science (3 weeks)
- 5 Scientific Understanding (2 weeks)

Wrap up (1 week)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は、授業内容を理解できていること、またその理解した内容を適切に活用して具体例が分析できていること、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

【教科書】

前半については以下の書籍から関連箇所を授業内で配布。後半については別途指示する
Martin Curd et al. eds. (2013) Philosophy of Science: The Central Issues, Second edition. Norton.

For the first half of the class, relevant parts of the following book will be distributed in the class. Readings for the latter half will be assigned in the class.

Martin Curd et al. eds. (2013) Philosophy of Science: The Central Issues, Second edition. Norton.

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

科学哲学科学史(特殊講義)(3)へ続く

科学哲学科学史(特殊講義)(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求めます。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系3

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	英語
題目		哲学の方法論 Philosophical Methodology									
【授業の概要・目的】											
<p>現在、英米の哲学を中心として、哲学の方法論を問い直す動きが盛んである。これまで分析系の哲学で当然のツールとされてきた概念分析や直観の使用が再検討の対象となり、経験科学の知見や手法を哲学の中に取り入れる動きも大きくなっている。この授業では、哲学の方法論の再検討の現状を知り、いかにして哲学するかという問題についてあらためて考えたい。</p> <p>There is a recent trend in philosophy, especially within the Anglo-American tradition, that reexamines the methodology of philosophy. The taken-for-granted tools in analytic philosophy, such as conceptual analysis and use of intuition have been the subject of re-examination, and more and more insights and methods in empirical sciences are incorporated into philosophy. We come to know the present state of reexamination of philosophical methodology in this class, and reconsider how we do philosophy.</p>											
【到達目標】											
<p>哲学の方法論について、これまでどのような方法論が用いられてきたか、また方法論について現在どのような提案が行われているかを理解し、さまざまな立場に対して批判的な検討ができるようになる。</p> <p>To understand what kind of philosophical methodology has been used, and what kind of proposals are made recently on that issue; to acquire the ability to examine various positions critically.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第一部 歴史的背景 Part 1 historical background</p> <p>1 論理経験主義 logical empiricism</p> <p>2 日常言語アプローチ ordinary language approach</p> <p>3 ウィトゲンシュタインのデフレ主義 Wittgenstein's deflationism</p> <p>4 哲学的自然主義 philosophical naturalism</p> <p>第二部 伝統的方法論の再検討 reexamination of traditional methodology</p> <p>5 反照的均衡 reflective equilibrium</p> <p>6 概念分析 conceptual analysis</p> <p>7 直観 intuition</p> <p>8 想像可能性 conceivability</p> <p>第三部 近年の展開</p> <p>9 モデリング modeling</p> <p>10 実験哲学 experimental philosophy</p> <p>11 脳神経科学と哲学 neuroscience and philosophy</p> <p>12 言語学と哲学の方法論 methodology in linguistics and philosophy</p> <p>13 文学・映画の哲学の方法論 methods in philosophy of literature and film</p> <p>14 フェミニズム feminism</p> <p>15 まとめ wrap-up</p>											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

二回のレポートで評価を行う(各50%)。評価は授業内容をどの程度理解できているか、またその理解した内容をどの程度活用して具体例が分析できているか、という視点から行う。

The evaluation will be based on two papers (50% each). The points of view of the evaluation are the understanding of the content of the class and appropriate application of the understanding to concrete cases.

【教科書】

主に以下の書籍からリーディングとして使用する部分を授業内で配布

Cappelen, H., Gendler, T.S. and Hawthorne, J., eds. (2016) The Oxford Handbook of Philosophical Methodology. Oxford University Press.

Most of the readings are from the following book and will be distributed in the class.

Cappelen, H., Gendler, T.S. and Hawthorne, J., eds. (2016) The Oxford Handbook of Philosophical Methodology. Oxford University Press.

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

宿題となったリーディングは事前に読み、クラスディスカッションに参加できるようにしておくことを求める。

Participants are expected to read the assigned reading before each class to be able to take part in the class discussion.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。

開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style where on-demand lectures and real-time discussions are used, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系4

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 社会学部 准教授 杉本 舞			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コンピューティング史のヒストリオグラフィを考える									
【授業の概要・目的】											
この授業では、コンピュータをはじめとした多岐にわたる情報処理技術の歴史（コンピューティング史）を概観しながら、そのヒストリオグラフィのありかたについて検討する。理論史・思想史・文化史・ハードウェア史をはじめとしたコンピューティング史への多様な取り組み方について理解を深めつつ、コンピュータをとりまくさまざまな研究分野の重なりや関連性、またその変化、ひろく技術史の研究手法についても考察したい。											
【到達目標】											
19世紀末から21世紀にわたるコンピューティングの歴史について理解し、様々な近接分野との関連性について吟味できるようになる。 コンピューティング史のヒストリオグラフィや史料の取り扱いについて理解する。											
【授業計画と内容】											
授業は以下の計画で進める。講義形式の授業と、授業内で指定した文献に関するディスカッション等を組み合わせながら進める予定である。											
ガイダンス 技術史と歴史記述（ヒストリオグラフィ）（2回） コンピューティングの史的展開を概観する（4回） コンピューティングの理論と数学史・科学史（2回） コンピューティングと文化、ジェンダー（2回） コンピューティングと政治、経済、経営（3回） まとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点100% 授業期間中には授業テーマに関わる小レポートを数回課し、学期末には課題を出す。それらの点数の合計を平常点とする。いずれのレポートも到達目標の達成度に基づき評価する。											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[教科書]

未定
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

Martin Campbell-Kelly, William Aspray, Nathan Ensmenger, Jeffrey R. Yost 『Computer: A History of the Information Machine, The 3rd Edition』 (Westview Press, 2014.) (上記文献の翻訳『コンピューティング史』(仮題)共立出版, 2021.を参考書に加える可能性がある。詳細については授業初回で説明する。)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業内容に関わる文献を授業外で読んでくること。文献リストについては授業中に指示する。

(その他(オフィスアワー等))

連絡は電子メール(msgmt@kansai-u.ac.jp)で受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系5

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		学問とコンピューティングの歴史									
【授業の概要・目的】											
<p>2020年のコロナ禍の影響で、オンライン講義の普及をはじめ、教育環境のデジタル化は一気に加速したようにも見えるが、教育・研究へのコンピューティングの導入は1950年代から徐々に深化してきた。本講義では、教育・研究にコンピュータが導入されるにあたって、何が議論され、どのような変化が起こってきたのかを歴史的に振り返ることで、受講生がそれぞれ今後の教育・研究のありかたについての展望を持つきっかけとなることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究分野でのコンピューティング利用の歴史を知ること、自らの研究領域でのコンピューティング活用の可能性について考えるための視点が得られる。 ・現在進行形で日々変化しているコンピューティング環境のありようについて、歴史的な理解をもつことで大局的な理解ができるようになる。 ・コンピューティングという観点からの歴史研究の視点を得る。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 大学に初めてデジタルコンピュータがやってきた (米国の事例：IBMとNSF) 3. 大学に初めてデジタルコンピュータがやってきた (日本の事例：1960年代から70年代にかけてのコンピュータ共同利用) 4. 国際学会でのコンピューティングの導入 (結晶学などを事例に) 5. 対話型コンピューティングへの道 6. 対話型コンピューティングへの道 7. 小型コンピュータの導入 (LINKとバイオサイエンス分野を事例に) 8. 小型コンピュータの導入 9. 新しい研究方法の模索 (統計学などを事例に) 10. 新しい研究方法の模索 11. 可視化の力 (SIGGRAPH初期の科学的コンピュータ・グラフィックスを例に) 12. ブラックボックス化への抵抗 (UNIXの歴史と自由ソフトウェア運動) 13. ブラックボックス化への抵抗 14. データマイニングと名寄せ (国家データバンクとAOLサーチクエリ問題を例に) 15. これからの学問的コンピューティングに向けて 											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学哲学科学史(特殊講義)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価
授業前課題や授業内課題への参加（30点）
レポート課題の内容（70点）

[教科書]

プリント等を配布する予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

次回内容に関する授業前課題への回答（所要時間15分程度）
配布資料の読解（英語文献を含む。所要時間30分/件）
レポート作成（3時間程度）

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイトを作成

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系6

科目ナンバリング		G-LET32 68231 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(特殊講義) Philosophy and History of Science (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		慶應義塾大学文学部 准教授 田中 泉吏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		歴史的かつ社会的な産物としての心									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの心は（広い意味で）歴史的かつ社会的な産物である。歴史的な産物であるということに加えて、文化的な進化過程、そして（独特な）発達過程の結果であるという意味である。さらに、これらの過程のいずれにおいても、すぐれて社会的な動物である人類においては、個体間の社会的相互作用が重大な要因としてかかわっている。この授業ではこうした観点から、縦系としての歴史と横系としての社会がどのように絡み合っているのかを、関連する科学分野の知見を参照しながら、丁寧に解きほぐしていく予定である。</p>											
【到達目標】											
<ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する科学分野の知見を批判的に検討する。 2) 関連する科学分野の知見を総合して、人間の心を包括的に理解する。 3) 歴史的・社会的な視点が哲学においてどのような重要性をもつのかについて確認する。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 生物学・心理学の哲学概説 3. 社会的な知性とモジュール的な心 4. 協力的採食と社会的学習 5. 第1回フィードバック 6. 社会的学習とその進化 7. 現代人的行動の謎とネアンデルタール人絶滅の謎 8. 繁殖協力とおばあちゃん仮説 9. 狩猟と協力複合体 10. 第2回フィードバック 11. コミットメント 12. 感情 13. 情報共有とコミュニケーション 14. 道徳的な心 15. 第3回フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 科学哲学科学史(特殊講義) (2)へ続く -----											

科学哲学科学史(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

授業内の課題（全3回）によって評価します。

[教科書]

使用しない
スライド資料を配布します。

[参考書等]

（参考書）

キム・ステレルニー 『進化の弟子』（勁草書房,2013年）ISBN:978-4-326-19964-8
その他、授業中にも適宜紹介します。

[授業外学修（予習・復習）等]

必要に応じて授業中に指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オンデマンド（資料配布・課題提示型）授業です。課題の締め切りおよびフィードバックのタイミングについては適宜お知らせします。フィードバックは、いくつかの解答例を匿名で紹介し、コメントをつけるという形で行う予定です。連絡方法については授業開始時にお知らせします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系7

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 教授 齋藤 光			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本語文化圏における進化論の移入と展開									
[授業の概要・目的]											
<p>進化論の出発点をどこに置くかは議論の余地がある。ここでは仮に『種の起原』の初版が出版された1859年をスタート地点としておこう。そのうえで、ダーウィンによって大きく問題提起された進化論が、日本語文化圏に移入され展開していく過程で、日本語文化圏の諸思想とどのように交絡したか、また、「進化論」自体が日本語文化圏の一思想としてどのような位置と形態を持ったかを考えてゆく。</p> <p>昨年翻訳出版された、クリントン・ゴダール著、碧海寿広訳の『ダーウィン、仏教、神 近代日本の進化論と宗教』をメインテキストとして精読し、関連の一次資料や二次文献をサブテキストとして使用して、より広く立体的な理解を測るよう演習を進めていく予定である。</p> <p>基本的には、「科学」という自然についての理解や説明が、どのように非自然領域にも影響し浸透するか。「科学」が諸「思想」や諸「宗教」とどのように交差するか、また、日本語文化圏においては、「進化論にどのような特質がみられるか、といったことに関して、一定の了解するための図式を手にするを演習の目的としたい。</p>											
[到達目標]											
<p>テキストの内容を、そのテキストが含まれた文脈をも理解したうえで、より正確に縮約要約できるようになる。</p> <p>「科学」の位置とその影響について理解し説明できるようになる。</p> <p>「進化論」の内容やその歴史的多様性、また、現在の「進化論」の形を理解し説明できるようになる。</p> <p>「進化論」と諸「思想」や諸「宗教」との交差と交絡を理解し説明できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：ガイダンスとイントロダクション（必ず出席ください） 演習担当者が整理した、「科学」「技術」「科学技術」について概説し、さらに「生物学」の出現と意味、また、「進化論」の位置を説明する。そのうえで、演習の進め方を提案し、テキスト担当者を決める。演習参加者の人数が少ない場合は、複数回担当することがあり、また、多い場合（13人以上）は、サブテキストを適宜使用し担当してもらう。</p> <p>第2回～第14回：『ダーウィン、仏教、神 近代日本の進化論と宗教』を読む 『ダーウィン、仏教、神 近代日本の進化論と宗教』をメインテキストとして精読し、関連する一次資料や二次文献をサブテキストとして検討してゆく。毎回のテキスト担当者は、レジュメを用意してテキストの内容について解説検討批判する。また、論点となる要素を抽出し提示する。その後、参加者で相互に議論/ディスカッションする。</p> <p>第15回：まとめ 『ダーウィン、仏教、神 近代日本の進化論と宗教』を基軸としつつ、日本語文化圏における進化論の展開拡散についてまとめ、今後考えるべき課題や疑問点問題点を整理する。</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

テキストの担当部分の報告等；40%、議論やディスカッションへの積極的参加；15%、演習を踏まえての最終レポート提出；45%

【教科書】

授業中に指示する
授業で使用するテキストは、担当教員が用意して配布する。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

演習スタート後の予習復習に関しては、そのつど指示する予定である。

(その他(オフィスアワー等))

演習がスタートするまでに、ピーター・J・ボウラー著、鈴木善次他訳『進化思想の歴史(上・下)』(朝日新聞社(朝日選書)、1987年)にざっと目を通しておくのが望ましい。
やや異端的であるが、ライアン・フランク著、夏目大訳『破壊する創造者』(早川書房(ハヤカワ文庫NF)、2014年)も、視野を広げるうえでは有益である。
ダーウィンの著作では、『種の起原』(初版)の翻訳と『ダーウィン自伝』の翻訳を読んでおく
とさらに良い。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 教授 齋藤 光			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		人間個体/個人の「性」(セクシュアリティ)の「科学」的「医学」的記述解析(セクソロジー)の展開を学ぶ									
[授業の概要・目的]											
<p>セクソロジーは、19世紀末に出現したが、明確なディスプリンとして確立したかどうかに関して、議論がある分野である。特に日本においては、性科学という訳語があるとはいえ、独立した分野として展開しているとは言えない状況である。しかし、性科学 セクソロジー由来の概念は、日本語文化圏の中で、使用され、他者や自らを記述し、説明する語彙として重要性があるものも少なくない。</p> <p>この演習では、そうしたセクソロジーをスタートさせた人物についての批判的研究を精読する。メインテキストとしては、以下の2冊を考えている。両方、または、どちらか一方を読み進めながら、関連の一次資料や二次文献をサブテキストとして使用して、より広く立体的な理解を測るように演習を進めていく予定である。</p> <p>基本的には、「科学」という自然についての理解や説明が、他者や主体を記述し、また、把握する語彙や図式としていかに拡散し浸透していくのか、ということに関する、図式を手にすることを演習の目的としたい。</p> <p>Harry Oosterhuis, Stepchildren of nature : Krafft-Ebing, psychiatry, and the making of sexual identity. University of Chicago Press, 2000.</p> <p>Elena Mancini, Magnus Hirschfeld and the quest for sexual freedom : a history of the first international sexual freedom movement. Palgrave Scholarly Books, 2015 (2010) .</p>											
[到達目標]											
<p>テキストの内容を、そのテキストが含まれた文脈をも理解したうえで、より正確に縮約要約できるようにする。</p> <p>「科学」の位置とその影響について理解し説明できるようになる。</p> <p>セクソロジーや性科学の内容やその歴史的展開を理解し説明できるようになる。</p> <p>セクソロジーや性科学の社会や文化との交差と交絡を理解し説明できるようになる。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>第1回：ガイダンスとイントロダクション(必ず出席ください)</p> <p>演習担当者が整理した、「科学」「技術」「科学技術」について概説し、さらに「生物学」の出現と意味、医学の生物学化、および、個体の性の対象化について簡単に説明する。そのうえで、演習の進め方を提案し、テキスト担当者を決める。演習参加者の人数が少ない場合は、複数回担当することがあり、また、多い場合(13人以上)は、サブテキストを適宜使用し担当してもらう。</p> <p>第2回～第14回：上述のメインテキストのいずれか、または、両者を読む</p> <p>上述のメインテキストを精読し、関連する一次資料や二次文献をサブテキストとして、セクソロジーや性科学について検討してゆく。毎回のテキスト担当者は、レジュメを用意してテキストの内容について解説検討批判する。また、論点となる要素を抽出し提示する。その後、参加者で相互に</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

議論/ディスカッションする。
第15回：まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

テキストの担当部分の報告等；40%、議論やディスカッションへの積極的参加；15%、演習を踏まえての最終レポート提出；45%

[教科書]

テキストはプリント配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
演習時間内で提示予定。

[授業外学修(予習・復習)等]

事前の予習は必要ない。
演習スタート後の予習復習に関しては、そのつど指示する予定である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系9

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メイヨーの統計学の哲学 Mayo's philosophy of statistics									
【授業の概要・目的】											
<p>統計学の方法論は現在非常に関心を集める話題となっている。古典統計学における有意性検定が批判の対象となり、対案としてのベイズ統計に注目があつまっている。デボラ・メイヨーは錯誤統計学という独自の科学方法論の立場から、統計学の哲学においても独自の議論を展開している。今回の演習ではメイヨーの近著を手がかりに、メイヨーの考えを理解することを目的とする。</p> <p>The methodology of statistics is currently a hot topic; the significance test in classical statistics is criticized and Bayesian statistics as an alternative attracts a wide attention. Mayo develops a unique position in philosophy of statistics from her own scientific methodology called error statistics. In this class we use Mayo's recent book to understand her ideas.</p>											
【到達目標】											
<p>Mayo の統計学の哲学に関する考え方を理解し、批判的に検討できるようになる。</p> <p>To understand Mayo's ideas on philosophy of statistics, and to be able to examine her position critically.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>Mayo, D.G. (2018) Statistical Inference as Severe Testing : How to Get Beyond the Statistics Wars. Cambridge University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当(13回) まとめ(1回)</p> <p>We read the following book by turns, and discuss the content.</p> <p>Mayo, D.G. (2018) Statistical Inference as Severe Testing : How to Get Beyond the Statistics Wars. Cambridge University Press.</p> <p>The basic format of the class is as follows: we read approximately 15 pages of the reading in one meeting, and have some discussion. A student (or a team of students) is responsible for a presentation that introduces the reading to the meeting (the assignment is done beforehand).</p> <p>The class structure is:</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

Introduction (1 meeting)
Student presentations (13 meetings)
wrap-up (1 meeting)

【履修要件】

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

【成績評価の方法・観点】

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。

発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

The evaluation will be based on the class presentation(s) and the final paper (50% each). The points of view of the evaluation are: correct understanding of the assigned part and its appropriate introduction for class presentation(s), and correct understanding of the chosen part and its appropriate critical examination for the final paper.

【教科書】

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布
Relevant parts of the above-mentioned book will be distributed in the class.

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

All the participants are expected to read the assigned reading before each class. The presenter prepares a several A4 pages of handout that summarizes the assigned part before the class.

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30（オンライン授業となった場合は設けない）。
開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリ

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

アルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系10

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		時空の哲学 Philosophy of space and time									
【授業の概要・目的】											
<p>時空の哲学は物理学の哲学の伝統的なテーマの一つである。このテーマを本格的に研究するならば一般相対性理論などについての専門的な知識が必要となるが、入門的なテキストからでもある程度この分野の基本的な問題について知ることができる。この授業ではティム・モードリンの教科書を使って時空の哲学の理解を目指す。</p> <p>Philosophy of space and time is one of the traditional themes in philosophy of physics. Even though professional knowledge in general theory of relativity is required for conducting serious research in this field, an introductory textbook suffices to have basic understanding of what are the main issues here. In this class we use Tim Maudlin's textbook for such basic understanding of philosophy of space and time.</p>											
【到達目標】											
<p>時空の哲学において何が論じられているかを理解し、主要な立場を批判的に検討できるようになる。</p> <p>To understand what are the issues discussed in philosophy of space and time, and to be able to examine main positions critically.</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下のテキストを輪読形式で読み、内容についてディスカッションを行う。 Maudlin, T. (2012) Philosophy of Physics: Space and Time. Princeton University Press.</p> <p>基本的に一回の授業でテキスト15ページ程度を読み、それについてディスカッションする形ですすめる。学生は一人ないし複数で一回の発表を担当する（担当者は事前に決めておく）。</p> <p>授業の進行は以下のとおり</p> <p>イントロダクション(1回) 学生による発表担当(13回) まとめ(1回)</p> <p>We read the following book by turns, and discuss the content. Maudlin, T. (2012) Philosophy of Physics: Space and Time. Princeton University Press.</p> <p>The basic format of the class is as follows: we read approximately 15 pages of the reading in one meeting, and have some discussion. A student (or a team of students) is responsible for a presentation that introduces the reading to the meeting (the assignment is done beforehand).</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

The class structure is:

Introduction (1 meeting)

Student presentations (13 meetings)

wrap-up (1 meeting)

[履修要件]

特に履修要件はもうけないが、科学哲学の基礎的事項については知っているものという前提で授業が行われる。最低限オカーシャ『科学哲学』（岩波書店）は全体を読み理解しておくことが望ましい。

No background is required, but if you are not familiar with philosophy of science in general, please read some introductory book by yourself. Okasha's introductory book (Philosophy of Science: A Very Short Introduction) is recommended.

[成績評価の方法・観点]

発表の担当と期末のレポートを各50%で評価する。

発表については担当した箇所を正しく理解し、適切に紹介できているか、レポートについては、レポートのテーマとして選んだ箇所を理解し、適切に批判的な検討を行えているかどうか評価基準になる。

The evaluation will be based on the class presentation(s) and the final paper (50% each). The points of view of the evaluation are: correct understanding of the assigned part and its appropriate introduction for class presentation(s), and correct understanding of the chosen part and its appropriate critical examination for the final paper.

[教科書]

使用しない

「授業計画と内容」で挙げた著作から使用する部分を授業内で配布

Relevant parts of the above-mentioned book will be distributed in the class.

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者全員が事前に授業で扱う箇所のリーディングに事前に目を通す。担当者は担当箇所の内容をまとめたA4数ページ程度の資料を事前に準備する。

All the participants are expected to read the assigned reading before each class. The presenter prepares a several A4 pages of handout that summarizes the assigned part before the class.

科学哲学科学史(演習)(3)へ続く

科学哲学科学史(演習)(3)

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは金曜日15:00-16:30 (オンライン授業となった場合は設けない)。
開講形態は対面式を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンデマンドとリアルタイムを組み合わせたオンライン授業やハイブリッド授業となることもありうる。

Office Hour will be on Fridays 15:00-16:30 (If the class goes to online, there will be no office hours).

The current plan is that the class meets in a face-to-face manner, but the plan may be changed to an online style or hybrid style, depending on the situation with COVID-19.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系11

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 1									
【授業の概要・目的】											
<p>本授業の最終的な目標は、受講者が論理的で明晰な思考に慣れ、何かを主張する際にはその主張がどのような根拠に基づいているかを明確化し、抜けも漏れもない論証ができるようになることである。そのための練習の題材としては、哲学的論理学、そのなかでも「論理とは何か」という問題をとりあげる。我々は日常、推論を行い、そして「論理的」という言葉をよく使う。もちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。</p> <p>本演習では、数学における定理の証明がシミュレートできる、「論理」と呼ばれうるような、記号を処理する体系（「形式的体系」）を紹介する。具体的には、最小述語論理の自然演繹の体系の解説と問題演習を行う。</p>											
【到達目標】											
<p>最小述語論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。このことを通し、形式的体系における演繹がどのように進むのかを理解し、同時に日常的な推論がどのように形式的体系においてシミュレートされるのかを理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>最小述語論理は、論理結合子の導入規則と除去規則のみを持つ、基本的な論理体系の一つである。前期の前半は、まず最小述語論理の自然演繹の体系を紹介する。問題演習を通じ、各自が自然演繹の証明が出来るようになることが目標である。また、後半には、最小論理上で算術の体系「最小算術Q」を例に、数学における多くの証明が最小論理で遂行可能であることを示す。同時に、原始再帰法など計算の基本概念を紹介する。</p> <p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <p>論理学とは何をする学問か 形式言語 最小命題論理の -導入規則および除去規則 最小命題論理の 、 -導入規則および除去規則 最小命題論理の問題演習 遠回りのない証明 量子子と最小述語論理 最小述語論理の -導入規則及び除去規則 最小述語論理の -導入規則及び除去規則 最小述語論理の問題演習 形式的な自然数論 原始再帰的関数と"$2+2=4$"の証明 再帰関数の数値的表現可能性 総合演習 形式的な論理学と言語の哲学</p>											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う。

【教科書】

使用しない
毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

【授業外学修(予習・復習)等】

ハンドアウトなどの授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(上記の授業Blog)にアップする。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的な体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		西日本旅客鉄道 技術部 矢田部 俊介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		論理学 2									
【授業の概要・目的】											
<p>我々は日常的に推論を行う。また「論理的」という言葉をよく使う。哲学においてももちろん「論理的」であることが要求される。しかし、「論理」とはいったい何だろうか。日頃、無反省に、知っているつもりで使っている概念の意味を問い直すのは、哲学の重要な仕事の一つである。また「論理」とはいったい何かという問題は、現代の大きな問題である。というのも、20世紀以降古典論理の体系以外にも多くの異なる論理体系が提案されているからである。それらの非古典的な体系が論理と呼ばれるなら、ある体系が「論理」と呼ばれるためには、どんな性質を満たしていることが必要だろうか。</p> <p>本演習では、最小述語論理の自然演繹の体系の解説から始め、最小論理・直観主義論理・古典論理での論理式の証明とそのモデルを使った議論が出来るようにすることを目的とする。その中で、単なる記号の処理を行なう体系が「論理」と呼ばれるにはどんな性質を満たす必要があるかを考察する。</p>											
【到達目標】											
直観主義論理と古典論理の自然演繹で、基本的な演習問題が解けるようになる。また、古典論理の完全性定理の証明を理解し、モデル論的意味論の意義を理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>前半では、前期に紹介した最小述語論理を例にとり、論理結合子の意味とは何かを、「証明論的意味論」と呼ばれる立場から考察する。具体的には、ベルナップの「トンク」の例を題材に、論理結合子の条件とは何かを考え、保存拡大性や証明の正規化といった論理学の基本概念を理解することを目指す。後半では、最小論理に論理規則を付加し拡張した論理体系を紹介する。つまり、最小論理に矛盾律、排中律と論理規則を加え、直観主義論理、古典論理の体系を得る。これらの例により、論理規則が加わるにつれて、論理式の証明は難しくなるものの、そのモデルは簡単になることを示す。また、その考察により、健全性や完全性といった記号とモデルの関係に関する基本概念の理解を目指す。</p> <p>最後に、論理学の話題として、ゲーデルの不完全性定理等も紹介する。</p>											
<p>具体的な授業計画は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理結合子の意味とは何か、意味の理論1と意味の理論2 意味の理論2と論理結合子の条件：プライアーの「トンク」、ベルナップの保存拡大性 プラヴィッツの「反転原理」 ダメットと証明の正規化可能性 「ホームズ論法」と矛盾律、直観主義論理 直観主義論理の問題演習 排中律と古典論理 古典論理における証明・問題演習 古典論理と真理表 古典論理と完全性定理 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

完全性定理の証明

総合演習

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理

(エクストラ課題)ゲーデルの不完全性定理の証明

(エクストラ課題)不完全性定理の意義

【履修要件】

前期の演習「論理学1」を履修すること

【成績評価の方法・観点】

ほぼ毎回出題する宿題の累計成績に準じて行う

【教科書】

使用しない

毎回ハンドアウトを配布する。

【参考書等】

(参考書)

戸次大介 『数理論理学』(東大出版会)

小野寛晰 『情報科学における論理』(日本評論社)

Dag Prawitz 『Natural Deduction: A Proof-Theoretical Study』

(関連URL)

http://d.hatena.ne.jp/kyoto_logic/(授業Blog: 休講等の連絡、ハンドアウト配布)

【授業外学修(予習・復習)等】

授業資料は毎回、事前(1日前まで)にwebsite(授業Blog)にアップします。学生は、授業前に資料にざっと目を通しておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

形式的体系を理解するためには、まず手を動かして練習問題の証明をやってみよう。記号の意味は何か、と考えるのはそれから。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET32 78241 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学社会技術共創研究センター 標葉 隆馬 准教授 文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		定量テキスト解析を用いた社会科学的アプローチ入門 - 科学社会的応用									
【授業の概要・目的】											
<p>現代において、新聞記事、Twitter、ブログ、議事録、アンケートの自由記述データなど様々なテキストデータが活用可能となってきている。</p> <p>本演習では、テキストデータに関する量的分析を実際に体験し、定量テキスト分析に関するデータの理解と実践力を深める。</p> <p>具体的には、サンプルデータを用いた分析実習・体験を交えながら、テキスト分析を活用した社会調査の方法論の基礎を習得すると共に、テキストデータを用いた社会調査の基礎的な理論・考え方についての理解を深めていく。</p>											
【到達目標】											
<p>テキストデータの分析アプローチについて理解し、実際に基本的な分析を理解し、かつ自分でも出来るようになることが目標となる。特に、新聞記事などのテキストデータの取り扱いが出来るようになることを目標とする。</p> <p>加えて、実際の活用事例について知ることで、研究としての展開可能性についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. メディアテキストを分析することの意味 本講義における基本的テーマや関心事項について共有すると共に、「言葉」に注目する分析アプローチの特徴について概説する。とりわけ「言葉」を量的に分析することについての基礎的な約束事項の理解を目指す。また分析に必要となるツールやデータの特性について理解する。 2. 定量テキスト解析の技法 : 新聞記事テキストのサンプルデータを用いて、頻度分析、クラスター解析、対応分析、共起ネットワーク分析を体験する。 3. 定量テキスト解析の技法 : 新聞記事テキストのサンプルデータを用いて、頻度分析、クラスター解析、対応分析、共起ネットワーク分析を体験する。 4. 先行研究事例を知る : 東日本大震災を巡るメディアテキストデータの実際の分析事例から、定量テキスト分析の活用方法や得られる知見特性について学ぶ。 5. 新聞記事データ収集実践 : データベースから取得した新聞記事テキストデータは、そのままでは分析しづらい状態のデータであることも多い。この回では、以降の分析に使用できる状態にテキストデータを加工し、注目するキーワードの抽出、またその出現状況データの取得を行うプロセスを実際に体験する。 6. 新聞記事データ収集実践 : データベースから取得した新聞記事テキストデータは、そのままでは分析しづらい状態のデータであることも多い。この回では、以降の分析に使用できる状態にテキストデータを加工し、注目するキーワードの抽出、またその出現状況データの取得を行うプロセスを実際に体験する。 7. 内容分析を体験する : 新聞記事テキストデータを用いて、内容分析について実際に行う。 8. 内容分析を体験する : 新聞記事テキストデータを用いて、内容分析について実際に行う。 9. 中間まとめ: 分析結果の書き方を学び、ここまで体験した新聞記事分析結果のまとめ方と解釈について検討する。 10. 実践練習 : 自分で決めたキーワードに関するテキストデータを実際に収集する。 											
----- 科学哲学科学史(演習)(2)へ続く -----											

科学哲学科学史(演習)(2)

11. 実践練習 : 自分で収集したテキストデータについて分析を行い、トレンドの可視化をする。
12. 実践練習 : 分析したデータを解釈し、レポート形式にまとめる。
13. 先行研究事例を知る : 萌芽的科学技术を対象とした定量テキスト分析を活用した社会科学的分析の実例を基に、分析方法の特性とその背景にある社会科学的な理論枠組みについて習熟する。
14. 先行研究事例を知る : 萌芽的科学技术を対象とした定量テキスト分析を活用した社会科学的分析の実例を基に、分析方法の特性とその背景にある社会科学的な理論枠組みについて習熟する。
15. まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加(50%)およびレポート(50%)により評価する。

【教科書】

授業レジュメを配布する。

【参考書等】

(参考書)

樋口 耕一 『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』(ナカニシヤ出版) ISBN:4779508037

金 明哲 『テキストデータの統計科学入門』(岩波書店)

標葉隆馬 『責任ある科学技術ガバナンス概論』(ナカニシヤ出版)

分析実習に必要な資料は、こちらから配布します。

但し、『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ならびに、『テキストデータの統計科学入門』は、定量テキスト分析を使った社会調査法の基本的なテキストの一例になるため、更に学びたい人は参考にしてください。

また講義内では、科学社会学的な観点からの実際の使用例を紹介します。『責任ある科学技術ガバナンス概論』は、その例を示したものになります。

【授業外学修(予習・復習)等】

確実の授業の間に、データの収集や分析の復習などが必要となります。

後半では、各自の独自の分析プロジェクトを実施してもらい、ハンズオンで行う時間も出てくるので、積極的な参加が前提となります。

(その他(オフィスアワー等))

演習に際して、PCを使用した分析実習が入ります。

そのため情報演習室を使いますが、もしWindowsの入った私用ノートPCがあれば、演習を通じて分析環境を整えることもできますので持参するとよいでしょう。

なお、Macの使用も可としますが、分析に必要なソフトの使用に4000円の費用が個人負担でかかることに注意してください(Windowsの場合はフリーなので費用はかかりません)

質問等がある方は講義内にするか、別途連絡用のメールやSlackにて問い合わせること

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系14

科目ナンバリング		G-LET32 7M383 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学哲学科学史セミナー									
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．											
[到達目標]											
論文作成のための基礎的な力を身につける．											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う．（第1回～第15回） 研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（出席および発表等）によって評価する．											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する． （その他（オフィスアワー等）） 特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系15

科目ナンバリング		G-LET32 7M383 SJ34									
授業科目名 <英訳>		科学哲学科学史(演習) Philosophy and History of Science (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 伊藤 和行 文学研究科 准教授 伊勢田 哲治			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		科学哲学科学史セミナー									
[授業の概要・目的]											
科学史および科学哲学における，近年の研究動向を理解するとともに，修士論文の作成に必要な基礎的な力を養う．また関連する研究会や学会での発表に向けて，日本語および英語での発表の技量を磨くとともに，研究会誌や学会誌への投稿へ向けて執筆に必要な基礎力を養う．											
[到達目標]											
論文作成のための基礎的な力を身につける．											
[授業計画と内容]											
授業に出席する各院生の研究状況を発表してもらい，研究テーマの設定，先行研究についての理解状況などについて個別に指導を行う．（第1回～第15回） 研究会や学会の発表に備えてそのシミュレーションを行ってもらい，各自のプレゼンテーション技法について指導を行う． 発表順や具体的な発表課題・内容等については，出席学生と担当教員とで相談をして決める．											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点（出席および発表等）によって評価する．											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） なし											
[授業外学修（予習・復習）等]											
発表担当時の準備，その他授業外作業がある場合は適宜指示する．											
（その他（オフィスアワー等））											
特になし オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		米・中東関係の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回） 3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回） 4. オフショア・バランスの時代（1960-80年代）（3回） 5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回） 6. まとめとフィードバック（1回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）

五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含め、授業中に適宜指示する。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系17

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系18

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系19

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
メディア文化学の基本をなす比較メディア論の研究パラダイムがどのように形成されたかを理解しその視点から個別のメディアの歴史を吟味し、現代社会の合意形成システムを分析することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1-2回 メディア社会とは何か 第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第4回 メディア都市の成立 第5章 出版資本主義と近代精神 第6回 大衆新聞の成立 第7回 視覚人間の国民化 第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第9回 ラジオとファシスト的公共性 第10回 トーキー映画と総力戦体制 第11回 テレビによるシステム統合 第12回 情報化の未来史 第13回 脱・情報社会へ 第14回 総論・試験 第15回 フィードバック											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[履修要件]

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

[成績評価の方法・観点]

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

[教科書]

佐藤卓己『現代メディア史』（岩波テキストブックス）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

[参考書等]

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（メディア学をより深く学びたい人のために。）
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）
佐藤卓己『メディア社会 現代を読み解く視点』（岩波新書）ISBN:9784004310228（『現代メディア史』のサブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN: 9784004317647（現代のメディア・リテラシーの実践に向けて。）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

[授業外学修（予習・復習）等]

テキスト『現代メディア史 新版』各章の第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系20

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治の近現代									
【授業の概要・目的】											
<p>(授業の概要・目的)</p> <p>2020年度はコロナ禍の影響で、授業内容を変更し、論文購読中心の授業となった。あらためて2021年度は、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産、「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録された陵墓、「神武東遷」の日本遺産候補などの諸問題にみられるように、密接に政治と関わっている。</p> <p>明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。そして20世紀には社会と深く関わり、アジア・太平洋戦争に至る。こうした日本の文化財のあり様を、近現代を通じて考えてゆきたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治の近現代」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・天皇制と文化財 ・明治維新と桜 ・廃仏毀釈と文化財の破壊 ・古都奈良・京都の明治維新 ・1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・明治維新と陵墓 ・正倉院御物の成立 ・フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ボストン美術館と日本美術 ・臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・「日本美術史」と文化財保護 ・帝室博物館と古都奈良・京都 ・史蹟名勝天然記念物保存法と社会改良 ・戦後改革と「史実と神話」の峻別 ・世界遺産と陵墓問題 											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房、1997年)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店、2006年)

【授業外学修(予習・復習)等】

京都において、「文化財と政治の近現代」に関わる巡見を希望者とする。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系21

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		関西大学 社会学部 准教授 杉本 舞			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		コンピューティング史のヒストリオグラフィを考える									
【授業の概要・目的】											
この授業では、コンピュータをはじめとした多岐にわたる情報処理技術の歴史（コンピューティング史）を概観しながら、そのヒストリオグラフィのありかたについて検討する。理論史・思想史・文化史・ハードウェア史をはじめとしたコンピューティング史への多様な取り組み方について理解を深めつつ、コンピュータをとりまくさまざまな研究分野の重なりや関連性、またその変化、ひろく技術史の研究手法についても考察したい。											
【到達目標】											
19世紀末から21世紀にわたるコンピューティングの歴史について理解し、様々な近接分野との関連性について吟味できるようになる。 コンピューティング史のヒストリオグラフィや史料の取り扱いについて理解する。											
【授業計画と内容】											
授業は以下の計画で進める。講義形式の授業と、授業内で指定した文献に関するディスカッション等を組み合わせながら進める予定である。											
ガイダンス 技術史と歴史記述（ヒストリオグラフィ）（2回） コンピューティングの史的展開を概観する（4回） コンピューティングの理論と数学史・科学史（2回） コンピューティングと文化、ジェンダー（2回） コンピューティングと政治、経済、経営（3回） まとめ・フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点100% 授業期間中には授業テーマに関わる小レポートを数回課し、学期末には課題を出す。それらの点数の合計を平常点とする。いずれのレポートも到達目標の達成度に基づき評価する。											
-----メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く-----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[教科書]

未定
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

Martin Campbell-Kelly, William Aspray, Nathan Ensmenger, Jeffrey R. Yost 『Computer: A History of the Information Machine, The 3rd Edition』 (Westview Press, 2014.) (上記文献の翻訳 『コンピューティング史』 (仮題) 共立出版, 2021. を参考書に加える可能性がある。詳細については授業初回で説明する。)

[授業外学修 (予習・復習) 等]

授業内容に関わる文献を授業外で読んでくること。文献リストについては授業中に指示する。

(その他 (オフィスアワー等))

連絡は電子メール(msgmt@kansai-u.ac.jp)で受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系22

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古都奈良・京都の近代									
【授業の概要・目的】											
(授業の概要・目的)											
<p>明治維新から現代までの古都奈良・京都について考える。</p> <p>古都奈良は、明治維新を通じて、「神武創業」の地としての神話的古代と、フェノロサ・岡倉天心によって発見されたギリシャに匹敵する歴史的古代の二重の意味を持つようになる。江戸時代まで田舎であった奈良が、三都・京都に匹敵する古都となり、20世紀には、修学旅行・観光の場となってゆくのは、ひとえに近現代における文化的・歴史的意味づけによるものであった。</p> <p>古都京都は、平安遷都以来、天皇・朝廷を擁する都（みやこ）であったが、1869年の東京遷都をへて、1880年代には、近代化とともに、歴史都市として、「伝統」「日本文化」を打ち出してゆくこととなる。</p> <p>二つの古都を比較する中で、日本近代における「伝統」の創造/連続について考えたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「古都奈良・京都の近代」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古都論の射程 ・ 明治維新と奈良 ・ フェノロサ・岡倉天心と日本美術史 ・ 帝室奈良博物館・帝室京都博物館 ・ 1900年パリ万国博覧会と奈良 ・ 神話的古代と奈良 ・ 洞部落の移転と天皇制 ・ 明治維新と京都 ・ 東京遷都と天皇制 ・ 1880年代の「旧慣」保存と京都 ・ 1895年、第4回内国勸業博覧会と平安遷都千百年記念祭 ・ 京都イメージと国風文化 ・ 京都イメージと桃山文化 ・ 古都奈良・京都と観光 ・ 世界史のなかの古都奈良・京都 											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制と古都』 (岩波書店、2006年)

【授業外学修(予習・復習)等】

「古都奈良・京都の近代」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 森下 達			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		特撮映画論									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本では、マンガやアニメ、ヒーロー番組といった「オタク文化」を、多くの人びとが政治や社会から切れたものとして受容している。そのような領域がいかんして形成されたのかを、『ゴジラ』（1954年）をはじめとする特撮映画作品群と、それらの映画の受容から考えていく。特撮映画こそは、文学者・文芸評論家からSF作家、いわゆる「オタク第一世代」に至るまでさまざまな層の注目を集めたジャンルであり、その受容からは、戦後日本における批評のモードの変化をある程度見て取ることができるだろう。</p> <p>なお、授業内では、実際に映像作品を視聴した上で議論を行っていく。小説作品や批評・論考を事前に読んでもらった上で授業に臨むことを求める場合もある。積極的な授業参加を望みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・特撮映画ジャンルの歴史を学び、ポピュラー・カルチャーを研究する上での基礎知識を獲得する。 ・ポピュラー・カルチャー批評の流れを学び、自分なりの視点で作品や文化現象を語れるようになる。 ・ポピュラー・カルチャー作品と社会との関わりを理解し、自分自身の文化との関わり方を見直すことで、文化への感受性を高めていく。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス：TV以前と以後</p> <p>第2回～3回 戦後日本におけるSFジャンルの定着：TVメディアとの関係から</p> <p>第4回～第7回 「空想科学映画」という価値観：『ゴジラ』（1954年）・『空の大怪獣 ラドン』（1956年）</p> <p>第8回～第11回 文学者・文芸評論家と特撮映画：『地球防衛軍』（1957年）・『モスラ』（1961年）</p> <p>第12回～第14回 SFから「オタク」へ：キャラクター消費という問題</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>開講日時については、5月中にKULASISを通して連絡する予定である。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（30％）およびレポート（70％）により評価する。
なお、6回以上欠席したのものには単位を与えないので、注意すること。もちろん、すべての授業に出席することが望ましいのはいうまでもない。

[教科書]

使用しない
授業レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

森下達 『怪獣から読む戦後ポピュラー・カルチャー 特撮映画・SFジャンル形成史』（青弓社、2016年）ISBN:978-4-7872-7392-5（授業者自身の著作であり、授業内容と密接に関連する。）

（関連URL）

<https://www.seikyusha.co.jp/bd/isbn/9784787273925/>(上記書籍の情報が記載されている出版社のHP。)

[授業外学修（予習・復習）等]

シラバスに記してある特撮映画作品について、スタッフやあらすじなど基本的な情報を把握しておくこと。また、『ゴジラ』（1954年）については膨大な数の批評・論考が書かれているので、ひとつだけでもそれに触れ、この映画がどのように論じられているのかを自分なりに考えておくことが望ましい。

それ以外の予習・復習については、授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

集中講義なので「オフィスアワー」は特に設けません。質問等がある方はその場で訊ねるようにしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		描写の哲学と現代の文化									
【授業の概要・目的】											
<p>現代英語圏の美学・芸術哲学（いわゆる分析美学）の下位分野として描写の哲学がある。「描写（depiction）」は、手描きの絵、写真、アニメーションといった画像（picture）一般が何かを表すことを指す。</p> <p>描写の哲学自体はかなり抽象的な問題を扱うものだが（画像はどう定義できるか、画像表象と言語表象などのその他の種類の表象のちがいはどこにあるのか、etc.）、その知見は伝統的な絵画や写真のみならず現代の視覚文化（映画、アニメーション、マンガ、ビデオゲーム、etc.）の実践の理解に少なからず寄与する。</p> <p>この講義では、描写の哲学についての基本的な知識を確認したうえで、それを現代文化の諸相に対して具体的に適用してみることで、理論の有益さと理論ではカバーしづらい文化実践の豊かさについて考える。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・描写の哲学の一部の先行研究と基本概念を理解する。 ・哲学的な（とくに分析美学的な）理論が何を指してどのように作られるかを理解する。 ・理論を具体的な文化的対象に適用することで何が得られるかを考える。 ・現代の視覚文化がそれぞれに持つ独特さを考える。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 「うちに見る」という知覚：ウォルハイムの議論</p> <p>第3回 記号としての画像：グッドマン／カルヴィッキの構造説</p> <p>第4回 画像とその内容を記述するための概念</p> <p>第5回 画像とその内容を記述するための概念</p> <p>第6回 リアリズムとデフォルメ</p> <p>第7回 写真の透明性</p> <p>第8回 フィクションの画像とノンフィクションの画像</p> <p>第9回 画像とコミュニケーション：顔文字、絵文字、スタンプ</p> <p>第10回 画像を使う行為とその倫理</p> <p>第11回 キャラクター</p> <p>第12回 デジタル写真とその加工</p> <p>第13回 ビデオゲームのグラフィック</p> <p>第14回 VRと透明性</p> <p>第15回 まとめ（フィードバック）</p>											
<p>授業の進み具合によって、一部のトピックを取り上げない可能性がある。</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：70%

平常点：30%

期末レポートの課題はおおむね「任意の文化的対象を取り上げ、授業内で紹介した理論を使ってその対象の独特さを説明しなさい(字数自由)」になる予定。

平常点は毎回授業後に求めるリアクションペーパーの提出によってカウントする。コメントの内容は成績に関わらない。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

トピックごとに(もしあれば)参考文献を示すが、授業内では十分な紹介はできないので、関心のあるトピックについては自分で文献を確認することが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

リアクションペーパーは次の授業で取り上げることがあるので、気になることがあれば積極的に書いてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系25

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
【授業の概要・目的】											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に鏡花文学の女性像や中国文学、前近代の文学に取材した作品を中心にモチーフやテーマを考察し、精緻な読解を目指す。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回に締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員は次回の講義でそれに答える。期末にはレポートを提出する。</p>											
【到達目標】											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜講義内容に関する質問、意見、感想などを書いて貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見を記入し、授業の際に提出する。</p> <p>全体の授業内容を踏まえて受講生各自でレポートを書く。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p>											
第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品											
第2回 鏡花文学の女性像とモデル 湯浅茂											
第3回 鏡花文学の女性像とモデル 目細照											
第4回 鏡花文学の女性像とモデル 紅葉館のお富ほか											
第5回 鏡花文学構造化の試み											
第6回 中国文学の影響 - 中国文学の影響 明治三十年の随筆											
第7回 中国文学の影響 - 中国文学の影響 明治三十年の雑記											
第8回 中国文学の影響 - 明治四十年代以降の随筆雑記 -											
第9回 中国文学の実作への影響											
第10回 鏡花文学における「魔」の女性像 片輪車											
第11回 鏡花文学における「魔」の女性像 瀧夜叉と飛天夜叉											
第12回 鏡花文学における「魔」の女性像 安達ヶ原の一つ家と前の世											
第13回 鏡花文学における「魔」の女性像 通り魔											
第14回 鏡花文学における「魔」の女性像 美しい女の通り魔											
第15回 まとめ											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見等の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

PandAのリソースに資料や論文の一部、講義音声等を置く。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 須田 千里			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		泉鏡花									
[授業の概要・目的]											
<p>泉鏡花は明治から昭和に涉って活躍した作家である。この授業では、主に鏡花が旅行で得た知見をどのように作品化したかや、前近代文学との関わり、子どもを視点とした作品の分析、さらに芥川龍之介や川端康成など鏡花に縁の深い作家との文学的交流、鏡花の単行本に関する書誌的考察を行う。併せて、受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶ。</p> <p>授業は事前に教員が講義内容の一部をPandAのリソースに置くので、受講生はそれを読んで質疑・意見を全体で5回(各回に締切を設ける)、PandAの「課題」に提出する。教員は次回の講義でそれに答える。期末にはレポートを提出する。</p>											
[到達目標]											
<p>泉鏡花に関する研究内容の把握が出来ること、従来の評価や論点を知った上で、自分の考えを論理的に述べられるようになること。他の受講生の多様な意見を受け入れ、適宜意見交換をしながらさらに自分の論点を深められること。クラス全体で、重層的に考えを発展していけること。批判的な考え方が出来ること。説得性と独自性を備えたレポートを書くことができること。</p>											
[授業計画と内容]											
<p>泉鏡花の研究において受講生の批判意識を深め、研究の手法を学ぶべく、適宜質問、意見などを提出して貰う。教員は、それを踏まえて補足する。</p> <p>学生は、教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文や論文を十分読み込み、質問や意見等を提出し、レポートを作成する。なお、理解の程度にあわせて進度や内容を調整することがある。</p> <p>第1回 ガイダンス。泉鏡花の生涯と作品 第2回 「歌行燈」の舞台と素材 第3回 「歌行燈」の構成と主題 第4回 川端康成と泉鏡花 「雪国」と「歌行燈」 第5回 伊勢・志摩と鏡花文学 第6回 信州・飛騨と鏡花文学 第7回 「黒百合」「薬草取」の山中異界 第8回 「春昼」の山中異界 第9回 明治二十年代の子どもによる一人称小説 第10回 鏡花の子ども語り小説への影響 第11回 鏡花と芥川龍之介 第12回 鏡花と尾崎紅葉・谷崎潤一郎・辻潤・宮島資夫・安成貞雄・佐藤春夫 第13回 鏡花の単行本書誌の諸問題 概要 第14回 鏡花の単行本書誌の諸問題 特論 第15回 まとめ</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

質問・意見等の表明 5 割、レポート 5 割。レポートは独自性と説得性の観点から評価する。

【教科書】

使用しない

PandAのリソースに資料や論文の一部、講義音声等を置く。

【参考書等】

(参考書)

授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

教員の講義内容がより深く理解できるように、各自作品本文を十分読み込んだ上で授業に出席するとともに、自宅において、質問や意見等を記入し、授業の際に提出する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話したい学生は、人環HPよりメールアドレスを検索し、希望日時を第三希望までと、学生番号、氏名を明記してメールすること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪市立大学文学研究科 准教授 奥野 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代文学作品原稿の研究									
【授業の概要・目的】											
<p>文学作品には、幸運にも作家直筆の原稿が揃って残されている場合がある。本講義では、文学作品を原稿で読むことで、その生成過程を研究する。文学作品を「読める」状態にするために必要なのは、本文校訂と注釈であるが、原稿の研究は本文校訂の基礎であるとともに、修正痕を調べ、草稿と見比べることで、生成過程を詳細に知ることができる。完成作品を読んだ鑑賞とは異なる、近代文学研究の面白さ、および、文学作品を後世に残すために必要な基礎研究の重要性を学び、身につけることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代文学研究の基礎を修得する。 ・一般読者の目には触れない直筆稿、草稿類の研究により、作品をその成り立ちや背景に遡って考究することができるようになる。 ・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 授業内容と評価方法等について</p> <p>第2回 芥川龍之介「鼻」の原稿</p> <p>第3回 「鼻」精読(1)</p> <p>第4回 「鼻」精読(2) 典拠など</p> <p>第5回 「鼻」草稿(1)</p> <p>第6回 「鼻」草稿(2)・小レポート</p> <p>第7回 芥川龍之介「山鳴」の原稿</p> <p>第8回 「山鳴」精読(1)</p> <p>第9回 「山鳴」精読(2) 典拠など</p> <p>第10回 「山鳴」草稿(1)</p> <p>第11回 「山鳴」草稿(2)</p> <p>第12回 「山鳴」と一高生のトルストイ受容・小レポート</p> <p>第13回 谷崎潤一郎「異端者の悲しみ」の原稿</p> <p>第14回 「異端者の悲しみ」精読(1)</p> <p>第15回 「異端者の悲しみ」精読(2)・小レポート</p>											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加姿勢（15点）、小レポート（15点）、期末レポート（70点）により評価する。
5回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

（参考書）

山梨県立文学館編 『芥川龍之介資料集』（山梨県立文学館、1993年）（図書館所蔵のものを参照すること。）

【授業外学修（予習・復習）等】

- ・講義で扱う作品については、事前に下読みをしておくこと。（文庫本や、ネット上のテキストでも可）
- ・一作品を読み終わるごとに小レポートを課すので、毎回の授業での疑問点などを復習としてまとめておき、小レポートに反映させること。

（その他（オフィスアワー等））

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。連絡先は授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪市立大学文学研究科 准教授 奥野 久美子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代文学と講談本									
【授業の概要・目的】											
<p>本講義では、近代文学と講談本との関わりについて研究する。講談本は、明治後半から昭和にかけて、大衆の娯楽であり、数多く出版されたが、多くは読み捨てられ、文学研究史上も長らく研究対象にされてこなかったが、近年は研究が進みつつある。芥川龍之介、菊池寛ら著名作家も講談本を下敷きに作品を書いており、本講義ではそれらを詳細に研究することで、近代文学作品を育てた豊饒な大地に古典文学や外国文学だけでなく、講談本などの大衆文芸までもが含まれていることを、明らかにし、近代文学研究の視野を広げることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・近代文学研究の基礎を修得する。 ・原稿・初出資料や典拠の講談本の研究により、作品をその成り立ちや出典、背景に遡って考究することの重要性を理解する。 ・講義を聴き、要点をつかみ、疑問点を整理して問題を発見し、レポート作成を通じて自ら研究し成果をまとめる能力を修得する。 											
【授業計画と内容】											
第1回 ガイダンス：授業内容と評価方法等について 第2回 講談本と近代文学 第3回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と鼠小僧もの 第4回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」精読 第5回 芥川龍之介「鼠小僧次郎吉」と「報恩記」 第6回 「報恩記」について・小レポート 第7回 鼠小僧ものと荒畑寒村の社会講談 第8回 社会講談とは 第9回 荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」(1) 第10回 荒畑寒村「紀伊国屋文左衛門」(2)・小レポート 第11回 菊池寛の戯曲「岩見重太郎」と芥川 第12回 岩見重太郎もの講談本について 第13回 菊池寛「岩見重太郎」精読(1) 第14回 菊池寛「岩見重太郎」精読(2) 第15回 まとめ・小レポート											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への参加姿勢(15点)、小レポート(15点)、期末レポート(70点)により評価する。
5回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

菊池寛『父帰る・藤十郎の恋 菊池寛戯曲集』(岩波文庫、2016年) ISBN:9784003106341 (購入は必須ではないが、授業内容に関連して参照を勧める。)

【授業外学修(予習・復習)等】

- ・講義で扱う作品については、事前に文庫本等、または事前配布のプリントで下読みをしておくこと。
- ・一作品を読み終わるごとに小レポートを課すので、毎回の授業での疑問点などを復習としてまとめておき、小レポートに反映させること。

(その他(オフィスアワー等))

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。連絡先は授業時に伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の100年									
【授業の概要・目的】											
1920年代初頭に誕生した中国共産党は、この2021年に結党100周年を迎える。この間、コミンテルン指導下の革命政党から独立した巨大執政党へと大きく変貌し、その影響力がグローバルなものになる中、この党の100年の歩みを振り返り、党の組成や特性、および中国現代史、東アジア史に与えた影響について概説する。											
【到達目標】											
中国共産党の歴史を概説することによって、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史については、同党自身が折々に公的な歴史像を提示しているが、その歴史像がどのように形作られ、その時々々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 結党から1930年代半ばまでの中国共産党の活動概説 3. 長征（1930年代中期） 4. 抗日統一戦線政策（1930年代後期） 5. 西安事変（1936年） 6. 抗日戦争と第二次国共合作 7. 延安整風運動と毛沢東の指導権（1940年代前期） 8. 抗日戦争の終結と国共内戦の開始（1940年中期） 9. 国共内戦の帰趨と中華人民共和国の成立（1940年代後期） 10. 政権党としての出発と政党国家システムの始まり（1948-1950年） 11. 中ソ同盟への道と朝鮮戦争（1950-53年） 12. 朝鮮戦争の帰趨と国家建設（1953-1955年） 13. 毛沢東論、革命家として、政治家として、文化人として 14. 改造される人々 イデオロギーと運動に満ちた社会 15. フィードバック 											
【履修要件】											
中国共産党の100年を前期・後期にわけて連続的に講義するので、前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間に数回行う小テストと期末のレポートによって評価する。その割合はおおよそ、小テスト3割、期末レポート7割とする。

[教科書]

おりおりにプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の100年									
【授業の概要・目的】											
1920年代初頭に誕生した中国共産党は、この2021年に結党100周年を迎える。この間、コミンテルン指導下の革命政党から独立した巨大執政党へと大きく変貌し、その影響力がグローバルなものになる中、この党の100年の歩みを振り返り、党の組成や特性、および中国現代史、東アジア史に与えた影響について概説する。											
【到達目標】											
中国共産党の歴史を概述することによって、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史については、同党自身が折々に公的な歴史像を提示しているが、その歴史像がどのように形作られ、その時々々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（中国共産党結党後30年の歩み） 2. 人民共和国建国初期の政策と社会（“単位”社会と個人管理） 3. 社会主義化への転換と過渡期の総路線（1950年代中期） 4. 反右派闘争と大躍進政策（1950年代後期） 5. 人民共和国における文化・芸術と政治 6. 人民共和国の外交（対ソ、対日、対米、対印）と冷戦体制 7. 毛沢東の国家建設構想と社会主義像（1960年代前半） 8. 文化大革命の発生（1960年代後半） 9. 文化大革命の展開と国内政局の混乱（1970年代前半） 10. 毛沢東の死と華国鋒体制 改革開放体制への萌芽（1970年代後半） 11. 改革開放と政治改革の頓挫（1980年代） 12. 改革開放の再起と国際秩序への参加（1990年代） 13. 革命的価値観からの離脱と中国ナショナリズム（2000年代） 14. 中国的スタンダードの確立と拡大（2010年代） 15. フィードバック 											
【履修要件】											
中国共産党の100年を前期・後期にわけて連続的に講義するので、前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間に数回行う小テストと期末のレポートによって評価する。その割合はおおよそ、小テスト3割、期末レポート7割とする。

[教科書]

使用しない
おりおりにプリントを配布する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系31

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、近現代ヨーロッパの「男らしさ」の核心をなす「名誉」・「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史で「男らしさ」が果たした役割と帰結について考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「名誉」・「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 近現代ヨーロッパの「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．男らしさと名誉 2．身体の再発見 3．植民地状況における男らしさ 4．戦争と男らしさ 5．戦争とセクシュアリティ 6．戦後の男らしさの行方 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 20点（受講生はほぼ毎回コメントシートを提出）、中間レポート 20点、口頭報告 20点、期末レポート 40点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）の4点で評価する。

[教科書]

授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』（藤原書店）ISBN:978-4-86578-131-1（特に購入する必要はありません。）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 68931 LJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(特殊講義) Media and Culture Studies (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		学問とコンピューティングの歴史									
【授業の概要・目的】											
<p>2020年のコロナ禍の影響で、オンライン講義の普及をはじめ、教育環境のデジタル化は一気に加速したようにも見えるが、教育・研究へのコンピューティングの導入は1950年代から徐々に深化してきた。本講義では、教育・研究にコンピュータが導入されるにあたって、何が議論され、どのような変化が起こってきたのかを歴史的に振り返ることで、受講生がそれぞれ今後の教育・研究のありかたについての展望を持つきっかけとなることを目指す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・教育・研究分野でのコンピューティング利用の歴史を知ること、自らの研究領域でのコンピューティング活用の可能性について考えるための視点が得られる。 ・現在進行形で日々変化しているコンピューティング環境のありようについて、歴史的な理解をもつことで大局的な理解ができるようになる。 ・コンピューティングという観点からの歴史研究の視点を得る。 											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 大学に初めてデジタルコンピュータがやってきた (米国の事例：IBMとNSF) 3. 大学に初めてデジタルコンピュータがやってきた (日本の事例：1960年代から70年代にかけてのコンピュータ共同利用) 4. 国際学会でのコンピューティングの導入 (結晶学などを事例に) 5. 対話型コンピューティングへの道 (初期のインタフェース) 6. 対話型コンピューティングへの道 (「人間の介入」) 7. 小型コンピュータの導入 (LINKとバイオサイエンス分野を事例に) 8. 小型コンピュータの導入 (LINKとバイオサイエンス分野) 9. 新しい研究方法の模索 (統計学などを事例に) 10. 新しい研究方法の模索 (S言語からRへ) 11. 可視化の力 (SIGGRAPH初期の科学的コンピュータ・グラフィックスを例に) 12. ブラックボックス化への抵抗 (UNIXの歴史と自由ソフトウェア運動) 13. ブラックボックス化への抵抗 (オープンソースの潮流) 14. データマイニングと名寄せ (国家データバンクとAOLサーチクエリ問題を例に) 15. これからの学問的コンピューティングに向けて 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(特殊講義)(2)へ続く -----											

メディア文化学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価
授業前課題や授業内課題への参加(30点)
レポート課題の内容(70点)

[教科書]

プリント等を配布する予定

[参考書等]

(参考書)
Stephen C Nash, ed., 『A History of Scientific Computing』(ACM Press, 1990)

[授業外学修(予習・復習)等]

次回内容に関する授業前課題への回答(所要時間15分程度)
配布資料の読解(英語文献を含む。所要時間30分/件)
レポート作成(3時間程度)

(その他(オフィスアワー等))

PandAのコースサイトを作成

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系33

科目ナンバリング		G-LET37 78941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の手法(前期)									
【授業の概要・目的】											
メディア文化研究では、資料の形態が多岐に渡る。この演習では、そうした多様な資料を扱い、論文を仕上げていくための実践的な技法を学ぶ。											
【到達目標】											
取り上げる資料の扱いに習熟し、各々の研究テーマに合わせて柔軟に技法を組み合わせることで研究を行うことができる基礎力を養う。											
【授業計画と内容】											
第1回 オリエンテーション・インタビューの基礎(研究グレードのインタビューとは)											
第2回 インタビューの方法論(オーラルヒストリー、グラウンデッドセオリーアプローチ)											
第3回 インタビューの方法論(グループインタビュー、ジャーナリスティックなインタビュー)											
第4回 インタビューの計画											
第5回 インタビューの実施											
第6回 インタビューの分析(コーディング、QDAソフトの使い方)											
第7回 Webデータの利用(信頼できる情報源とは)											
第8回 Webサイトの構造(HTMLとCSSの基礎)											
第9回 Webサイトの構造(文書のマークアップによるWebサイト作成)											
第10回 成果公開サイトの作成											
第11回 映像分析の基礎(コーディング、統計、分析)											
第12回 映像分析を用いた論文例の検討											
第13回 映像分析の実際(データ収集方法、プログラムの利用)											
第14回 映像分析(作品の選定、分析)											
第15回 映像分析(結果発表)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点(課題の提出、発表、レポート)											
-----メディア文化学(演習Ⅰ)(2)へ続く-----											

メディア文化学(演習Ⅰ)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

佐藤郁哉 『質的データ分析法』 (新曜社、2008年)

藤田真文編著 『メディアの卒論 第2版』 (ミネルヴァ書房、2016年)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業で取り上げた技法を使って、実際にデータ収集、分析を行う課題を出すので、しっかり取り組むこと。

(その他(オフィスアワー等))

PandAにコースサイトを作成し、それを通じて授業連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系34

科目ナンバリング		G-LET37 78941 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習Ⅰ) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化研究の手法(後期)									
【授業の概要・目的】											
<p>現代英語圏で主流の美学・芸術哲学(いわゆる分析美学)は、ある種の思考の割り切り(単純化と明晰さ)をベースにしつつ、活発な議論(批判と反論の応酬)を通じて協働的に美・芸術・文化・感性についての理解を深めていくことを特徴とする。</p> <p>この演習では、インターネット上などで議論されがちなものも含めた身近な文化のトピックを取り上げつつ、メディア文化を理解・研究するためのひとつの手法として、哲学的な文化研究の視点や論じ方を学ぶ。</p> <p>具体的に取り上げる文化は、教員の専門であるビデオゲーム(コンピュータゲーム、デジタルゲーム、いわゆるゲームのこと)を主に想定しているが、それ以外の文化実践も適宜取り上げる。</p> <p>授業の補助ツールとしてSlackを利用する予定。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・分析美学の見方や議論のスタイルに触れる。 ・理論を具体的な文化実践に適用することの意義・利点・限界について考える。 ・より実証ベースの研究にとって理論がどのような役割を持ちうるかについて考える。 ・どのような問いが研究として成り立つのか、どのような問いに対してどのような手法が適切なのかについて考える。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2～14回 議論と解説(以下参照) 第15回 フィードバック</p> <p>第2～14回は基本的に以下の形式で進める予定。</p> <p>Slackで課題文献を提示する。 次回授業日までに課題文献を読んでもらい、Slackにコメント(意見・疑問・批判など)を書き込んでもらう。 授業当日は、Slackの書き込みをもとに教員が関連するトピックや先行研究を紹介する。場合によっては、自身の書き込みについて学生に簡単なプレゼンテーションをしてもらう可能性もある。</p> <p>2～3週を1サイクルとして～を繰り返す。課題文献は、短めの論文やインターネット上の記事を考えている。</p> <p>課題文献や取り上げる話題については柔軟に選定するが、少なくとも以下の論点は含まれる予定。</p>											
----- メディア文化学(演習Ⅰ)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習Ⅰ)(2)

- ・定義の問題：ある文化的カテゴリーについて「～とは何か」という問いは成立するのか。またそれを問う意義は何か。
- ・作品の評価：作品に対する「好き嫌い」と作品の「良し悪し」はどうちがうのか（本当にちがうのか）。作品のレビューは何をしているのか。
- ・文化史記述：ある文化の歴史記述と作品の価値づけはどのように関係しているのか。「古典」とは何か。
- ・作品の解釈：作品を解釈する際に、作者の意図を気にする必要があるのか。あるいはそもそも作品の解釈とは何をすることなのか。
- ・作品の分析：作品を要素に分解して扱うことの意義は何か。それをする際にどのような理論を使うのが適切なのか。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

期末レポート：60%

平常点：40%

期末レポートの課題は「授業内で出た話題に関連して自分で問いを設定し、人を納得させられるような議論を経て答えを示しなさい（字数自由）」のようなものになる予定。

平常点は授業やSlackの書き込みにおける積極的な参加度で評価する。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

上記「授業計画と内容」に記載の通り、2～3週ごとに提示される課題文献の読解とそれに対するコメントが求められる。

また、Slack上の他の学生の書き込みについても目を通し、意見や疑問などがあればコメントしたりそれに応答したりするなど、積極的に議論に参加する態度を持って授業に臨むことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業外の質問は、基本的にメールまたはSlackのDMでお願いします。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系35

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		在中国イギリス領事報告を読む									
【授業の概要・目的】											
史料についての基本的な知識を得たうえで、中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって、イギリス人などの外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。											
【到達目標】											
英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。											
【授業計画と内容】											
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、内地流通に関わる商業紛争など、主として経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料は非常に細かい内容のものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。 初回と2回目の授業では史料についての解説を行い、3回～14回は担当者を決めて史料を読み進めていく。15回は読み進めた部分までの内容を振り返る。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 岡本隆司・吉澤誠一郎編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会）ISBN:4130220241											
【授業外学修（予習・復習）等】											
指定部分の日本語訳											
（その他（オフィスアワー等））											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、英文の手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主として部下（領事）から上司（公使）への報告であり、大部分はそれほど難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系36

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		在中国イギリス領事報告を読む									
[授業の概要・目的]											
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって、イギリス人などの外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。											
[到達目標]											
英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告（FO228）を精読する。具体的には、中国における華人関係の紛争など、主として社会に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料は非常に細かい内容のものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。 初回は史料についての解説を行い、2回～14回は担当者を決めて史料を読み進めていく。15回は読み進めた部分までの内容を振り返る。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 岡本隆司・吉澤誠一郎編 『近代中国研究入門』（東京大学出版会）ISBN:4130220241											
[授業外学修（予習・復習）等]											
指定部分の日本語訳											
（その他（オフィスアワー等））											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、英文の手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主として部下（領事）から上司（公使）への報告であり、大部分はそれほど難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 河瀬 彰宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		音楽文化の計量的研究									
【授業の概要・目的】											
<p>音楽(music)とは、時間の中に組み立てられた芸術のことである。音楽は社会の様々な仕組みの中で成立し、人々の行動様式・価値観と結びつきながら育まれてきた。そのため、ある音楽に対する評価は、音楽の性質だけに還元できるものではなく、そこに付与された社会的意味を切り離して考えることはできない。本講義では、音楽理論の基礎を学習するとともに、音楽を学際的に扱うために必要な能力を身につけることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>本講義の目標は、音楽文化に関する諸研究に対して、計量的な分析手法を適用する能力を身につけることである。講義の前半では、音楽の成立、データの作成方法、分析方法の基礎を習得する。後半では、日本音楽（伝統音楽、歌謡曲、J-POP）を対象とした処理論を概説し、実践的な分析を学修する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第01回 ガイダンス1：講義内容と音楽文化研究の概要説明 第02回 ガイダンス2：実行環境の構築 第03-07回 分析方法の基礎に関する講義 第08-10回 日本音楽に関する処理論の講義 第11-12回 発表準備（受講者数によって個人またはグループ作業を行う） 第13-14回 報告回（受講者数によって個人またはグループ報告を行う） 第15回 講義の総括</p>											
【履修要件】											
作業・発表準備を進めるにあたり、Webに接続できる個人用のPCを所持していること。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>次の3つの項目によって評価する： 平常点：55点 発表：20点 最終レポート：25点 ただし、演習形式の講義を展開するため、5回以上欠席した場合は、単位取得を認めない。</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[教科書]

講義中に適宜資料を配布する。

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

演習形式の講義を展開するため、復習中心で習得に当たられることが望ましい。
また、第13回、第14回において、各自の分析事例の報告を計画している。その準備のために2回分確保しているが、時間内に準備が終わらない場合は、授業時間外に準備を進めることになる。

(その他(オフィスアワー等))

非常勤講師のため、授業時以外の連絡や質問はメールにて受け付ける。
連絡先は初回の講義で伝える。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		コンテンツ制作実習(映像)									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、前年度のメディア文化学講義Bで取り上げた領域の実践的なコンテンツ制作をテーマとする。本年度は、映像制作を行う。</p> <p>講義Bでは、メディア文化に関わる領域のコンテンツ制作を実際に行っている人々からの視点を学ぶが、そのコンテンツ制作を受講生が行う実践の場が本演習である。こうした実作体験が、受講生のメディア文化の分析のありかたを深めてくれることを期待する。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル的な映像制作の基礎を身につける。 ・映像作品を制作側からの視点で見ることができるようになる。 ・課題制作と発表を通じて、自分のアイデアを形にして人に伝える能力を養う。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス 第2～4回 デジタル的な映像制作の基礎(映像制作用語、提案表の書き方、構成表の書き方、撮影と編集の基礎) 第5～8回 課題1: テレビ、映画などのコンテンツ制作技法をつかった制作課題の提案・制作 第9回 課題1 作品合評会 第10～14回 課題2: MTVなどのコンテンツ制作技法をつかった制作課題の提案・制作 第15回 課題2 作品合評会</p> <p>課題1、課題2ともプロフェッショナルをゲスト講師に迎え、課題の提示、技法の理解のためのワークショップを経て、アイデアの提案、制作までを行う。</p>											
【履修要件】											
前年度のメディア文化学講義Bを受講していることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点】											
<p>作品内容(各35点)、課題ごとの制作報告(各10点)、制作を行ったの振り返りレポート(10点)により評価する。</p> <p>5回以上授業を欠席した場合は、優れた作品制作をしても、単位を認めない。</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

・映像制作にはスマホ、動画撮影のできるカメラ等の各自の撮影機材、およびパソコンの編集ソフトを使用する。編集ソフトは、映像と音声のトラックを別に使用してタイムライン編集が行えるものを使う。授業中に例示するので、第4回目までの授業で各自制作環境を整えること。

・作品制作には授業外の制作時間(平均してそれぞれ10時間程度。凝った作品の場合にはそれ以上)が必要である。

(その他(オフィスアワー等))

PandAのコースサイトを作成し、授業連絡・通知等を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化という観点から再考する戦後日本の文学と映画									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映画作品を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める(以下の授業計画に挙げた作品はあくまで仮のものである)。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争(戦場、原爆、空襲)やビックイベント(オリンピックや博覧会)、あるいは日常生活(夢見られた「豊かな生活」)などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告(グループ報告)を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定 (1回目)</p> <p>2 講師による講義 報告のポイント共有 (2回目)</p> <p>3 受講生による報告と共同討議</p> <p>3~9回目: 戦争の 記憶 ~ 『青い山脈』(小説・映画)、 『二十四の瞳』(小説・映画)、 『アメリカンスクール』(小説)、 『独立愚連隊』(映画)、 『飼育』(小説)、 『この世界の片隅で』(マンガ、映画)、 復員兵の存在が書き込まれた任侠映画など</p> <p>10~11回目: 原爆の 記憶 ~ 『原爆の子』(手記集と映画)、 『黒い雨』(小説と映画)、 『この世界の片隅で』(マンガと映画) など</p> <p>12~13回目: 自己実現の 夢 『魔女の宅急便』(映画)、 『千と千尋の神隠し』(映画)、 沢木耕太郎『深夜特急』など</p> <p>14~14回目: 豊かな生活の 夢 ~ 『クレヨンしんちゃん モーレツオトナ帝国の逆襲』(映画)と『ALWAYS 三丁目の夕日』(映画)</p> <p>4 議論の総括(15回目)</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点と期末のレポート

なお、平常点とは、授業内での個人報告（グループ報告）を指す。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

個人報告（グループ報告）の順番が決まったあとは、担当するメディア文化（映画・マンガ・文学）を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのか、作者の来歴・思想を調査してもらう。

そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決め。以下の授業計画に掲げた作品はあくまで仮のものである）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力を養う。個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～8回目：戦後復興期 ～ 『生きていてよかった』、『忘れられた皇軍』、『佐久間ダム』、『ある機関助士』など 8～9回目：高度経済成長 ～ 『東京オリンピック』、『パルチザン前史』 10回目：70年代の公害 ～ 『水俣：患者さんとその世界』 11回目：80年代以降 『ゆきゆきて神軍』 12～14回目：90年代以降の現代 『A』、『選挙』、『いしづみ』 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系41

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		京都精華大学 国際マンガ研究センター 研究員 伊藤 遊			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		二十世紀以降の日本のマンガ環境について考える マンガ雑誌を手がかりに									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本に居住する私たちの身の回りには、ひとりではとうてい網羅できないほど、多種多様なマンガの雑誌や単行本があふれている。とりわけ戦後の日本社会を考察する上で、マンガは避けて通れない視覚表現・メディアと言えよう。</p> <p>本講義では、そうしたマンガ環境の一側面を具体的に考察するために、マンガ雑誌を資料とした演習を行う。掲載された作品はもとより、活字記事や広告等から、そのメディア的特徴、各誌の出版戦略、マンガ誌の文化的意義、「マンガ読者」という共同体の有様など、複眼的な考察を行い、微視的には「マンガ文化のあり方」を、巨視的には「二十世紀以降の大衆文化の有様」の一端を把握することがねらいである。</p> <p>形式は、受講者による発表が基本。これをふまえ、受講者全体でのディスカッション、担当教員のコメントを加える。</p>											
【到達目標】											
<p>マンガ雑誌という具体的な素材に実際に触れる機会を持つことで、ポピュラー文化研究における文献調査の方法論を学ぶ。</p> <p>同時に、プレゼンテーションの技術と方法論を実践的に学ぶ。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：ガイダンス。発表順・日程の調整。</p> <p>第2回：担当教員による講義。現在のマンガ雑誌に関する情報と視点を提供。</p> <p>第3回：担当教員による「京都国際マンガミュージアム」における講義。マンガミュージアム所管のマンガ雑誌資料について解説。テーマ設定についてディスカッション。</p> <p>第4回～第5回：雑誌を使ったマンガ研究の論文を講読</p> <p>第6回～最終回：受講者による発表。（*）</p> <p>（*） 最低1冊のマンガ雑誌を取り上げ、（A）テーマを設定した上で、あるいは（B）指定のテーマに従って、少なくとも5年分を調査の上、そこにおける変化やそのコンテキスト等について分析する。</p>											
【履修要件】											
特にないが、少なくとも1回、「京都国際マンガミュージアム」（京都市中京区）での授業を実施する。											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

[成績評価の方法・観点]

出席点：30点、発表内容・ディスカッションへの貢献度：70点

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

発表のための文献調査を各自で行うことが必要となる。必要に応じて、担当教員がその調査をサポートする。

(その他(オフィスアワー等))

「京都国際マンガミュージアム」(京都市中京区)での授業を実施する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学(演習II) Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		大阪大学社会技術共創研究センター 標葉 隆馬 准教授 文学研究科 教授 喜多 千草			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		定量テキスト解析を用いた社会調査・社会科学的アプローチ入門									
【授業の概要・目的】											
<p>現代において、新聞記事、Twitter、ブログ、議事録、アンケートの自由記述データなど様々なテキストデータが活用可能となってきている。</p> <p>本演習では、テキストデータに関する量的分析を実際に体験し、定量テキスト分析に関するデータの理解と実践力を深める。</p> <p>具体的には、サンプルデータを用いた分析実習・体験を交えながら、テキスト分析を活用した社会調査の方法論の基礎を習得すると共に、テキストデータを用いた社会調査の基礎的な理論・考え方についての理解を深めていく。</p>											
【到達目標】											
<p>テキストデータの分析アプローチについて理解し、実際に基本的な分析を理解し、かつ自分でも出来るようになることが目標となる。特に、新聞記事などのテキストデータの取り扱いが出来るようになることを目標とする。</p> <p>加えて、実際の活用事例について知ることで、研究としての展開可能性についての理解を深める。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1. メディアテキストを分析することの意味 本講義における基本的テーマや関心事項について共有すると共に、「言葉」に注目する分析アプローチの特徴について概説する。とりわけ「言葉」を量的に分析することについての基礎的な約束事項の理解を目指す。また分析に必要となるツールやデータの特性について理解する。</p> <p>2. 定量テキスト解析の技法 : 新聞記事テキストのサンプルデータを用いて、頻度分析、クラスター解析、対応分析、共起ネットワーク分析を体験する。</p> <p>3. 定量テキスト解析の技法 : 新聞記事テキストのサンプルデータを用いて、頻度分析、クラスター解析、対応分析、共起ネットワーク分析を体験する。</p> <p>4. 先行研究事例を知る : 東日本大震災を巡るメディアテキストデータの実際の分析事例から、定量テキスト分析の活用方法や得られる知見特性について学ぶ。</p> <p>5. 新聞記事データ収集実践 : データベースから取得した新聞記事テキストデータは、そのままでは分析しづらい状態のデータであることも多い。この回では、以降の分析に使用できる状態にテキストデータを加工し、注目するキーワードの抽出、またその出現状況データの取得を行うプロセスを実際に体験する。</p> <p>6. 新聞記事データ収集実践 : データベースから取得した新聞記事テキストデータは、そのままでは分析しづらい状態のデータであることも多い。この回では、以降の分析に使用できる状態にテキストデータを加工し、注目するキーワードの抽出、またその出現状況データの取得を行うプロセスを実際に体験する。</p> <p>7. 内容分析を体験する : 新聞記事テキストデータを用いて、内容分析について実際に行う。</p> <p>8. 内容分析を体験する : 新聞記事テキストデータを用いて、内容分析について実際に行う。</p> <p>9. 中間まとめ: 分析結果の書き方を学び、ここまで体験した新聞記事分析結果のまとめ方と解釈について検討する。</p> <p>10. 実践練習 : 自分で決めたキーワードに関するテキストデータを実際に収集する。</p>											
----- メディア文化学(演習II)(2)へ続く -----											

メディア文化学(演習II)(2)

11. 実践練習 : 自分で収集したテキストデータについて分析を行い、トレンドの可視化をする。
12. 実践練習 : 分析したデータを解釈し、レポート形式にまとめる。
13. 先行研究事例を知る : 萌芽的科学技术を対象とした定量テキスト分析を活用した社会科学的分析の実例を基に、分析方法の特性とその背景にある社会科学的な理論枠組みについて習熟する。
14. 先行研究事例を知る : 萌芽的科学技术を対象とした定量テキスト分析を活用した社会科学的分析の実例を基に、分析方法の特性とその背景にある社会科学的な理論枠組みについて習熟する。
15. まとめ

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

授業への積極的な参加(50%)およびレポート(50%)により評価する。

【教科書】

授業レジュメを配布する。

【参考書等】

(参考書)

樋口 耕一 『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』(ナカニシヤ出版) ISBN:4779508037

金 明哲 『テキストデータの統計科学入門』(岩波書店)

標葉隆馬 『責任ある科学技術ガバナンス概論』(ナカニシヤ出版)

分析実習に必要な資料は、こちらから配布します。

但し、『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ならびに、『テキストデータの統計科学入門』は、定量テキスト分析を使った社会調査法の基本的なテキストの一例になるため、更に学びたい人は参考にしてください。

また講義内では、科学社会的な観点からの実際の使用例を紹介します。『責任ある科学技術ガバナンス概論』は、その例を示したものになります。

【授業外学修(予習・復習)等】

確実の授業の間に、データの収集や分析の復習などが必要となります。

後半では、各自の独自の分析プロジェクトを実施してもらい、ハンズオンで行う時間も出てくるので、積極的な参加が前提となります。

(その他(オフィスアワー等))

演習に際して、PCを使用した分析実習が入ります。

そのため情報演習室を使いますが、もしWindowsの入った私用ノートPCがあれば、演習を通じて分析環境を整えることもできますので持参するとよいでしょう。

なお、Macの使用も可としますが、分析に必要なソフトの使用に4000円の費用が個人負担でかかることに注意してください(Windowsの場合はフリーなので費用はかかりません)

質問等がある方は講義内にするか、別途連絡用のメールやSlackにて問い合わせすること

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		Awesome Balance グラフィック・デザイナー 文学研究科 教授		小泉 俊 喜多 千草	
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		インフォグラフィクス入門									
【授業の概要・目的】											
文系・理系を問わず、データや分析結果を視覚的に示す力を持つことは、研究者にとって強みになる。この演習では、情報の可視化（インフォグラフィクス）に向けて必要な、グラフィックス作成の基礎力とデザインの基本を、主にコンピュータのドロー系ソフトを活用しながら学ぶ。											
【到達目標】											
インフォグラフィクスの概要を知る。 グラフィックデザインの基礎を学ぶ。 自分の研究プロジェクトにインフォグラフィクスを取り入れるための基礎知識を得る。											
【授業計画と内容】											
第1回 デザインの基礎とインフォグラフィクスの事例紹介											
第2回 ドロー系ソフト講習（基本操作）											
第3回 ドロー系ソフト講習（ベジェ曲線とトレース）											
第4回 ドロー系ソフト講習（パスとテキスト）											
第5回 課題A「マップ」制作											
第6回 課題A「マップ」制作 ・プレゼンテーション											
第7回 課題B「グラフ」制作											
第8回 課題B「グラフ」制作 ・プレゼンテーション											
第9回 課題C「ピクトグラム」制作											
第10回 課題C「ピクトグラム」制作 ・プレゼンテーション											
第11回 ペイント系ソフト講習と実践課題の決定											
第12回 実践課題制作											
第13回 実践課題制作 ・中間報告											
第14回 実践課題制作											
第15回 プレゼンテーションと総評											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（グラフィックス・デザイン基礎の実技課題40点、インフォグラフィクスの提案30点、提出作品30点）で評価する。											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習Ⅱ）（2）

【教科書】

飯塚将弘 『すぐに作れる ずっと使える Inkscapeのすべてが身に付く本』（技術評論社、2019）
ISBN:978-4-297-10585-3

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

実技に関しては、授業時間外にも繰り返し試み、習熟すること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮・韓国近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく3つのパートに分かれています。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールについて講義します。近年の植民地期朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文（韓国語）を講読します。受講生の関心に応じて、朝鮮史に関わる学術論文や一次史料（韓国語）を精読します。昨年度は、論文「1920年代植民地朝鮮の日本語文学場で角逐する創作主体」「＜ウリマルボン＞と学校教育」「多文化家族支援法の問題点と改善方向」、「女性嫌悪談論の競合と共存」の抜粋を読みました。</p>											
【到達目標】											
<p>1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。</p> <p>2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。</p> <p>3) 朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史についての概説講義</p> <p>2回目 朝鮮近代資料論の講義</p> <p>3～6回目 近年の植民地期朝鮮史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>7～15回目 韓国語で書かれた論文の精読。受講者の希望に応じて自叙伝・小説・日記・新聞などの一次史料の精読を行う場合もあります。</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます（受講生の韓国語レベルに合わせて授業内容は設定します）。与えられた資料の単なる日本語訳ではなく、論文中の歴史的イベントや資料の背景について自分で調べてもらって10分程度のミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
<p>論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。</p>											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）（2）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
毎回プリントを配布して、文法事項や歴史的背景の説明、参考文献の紹介をします。

[授業外学修（予習・復習）等]

講読・精読については予習を必須とします。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系45

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションを読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1952-1954, Volume 14, Part 2: China and Japan. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
-----メディア文化学（演習II）(2)へ続く-----											

メディア文化学（演習II）（2）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系46

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本近現代史料演習									
[授業の概要・目的]											
日本近現代史の一次史料を読む。史料の批判的読解という実践を通じて研究の基礎を身につけ、同時に日本近現代史への理解を深めるのが目的である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・史料の批判的読解に基づいて過去を再構成するという最も基礎的なトレーニングを通じて、日本近現代史研究の手法を体得する。 ・過去への問いをもって史料を読み、入念な調査と考察を通じて、その問いを歴史学的な論点へと発展させられるようになる。 ・史料から知ることができる過去は本来的に限られていることを理解し、史料から何が言えるか・言えないかを、根拠に基づいて論じられるようになる。 ・近現代の日本を世界史的視野から捉えられるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>1905年に長野県下伊那郡河野村の地主の家に生まれ、戦時中には村長も務めた胡桃沢盛が残した日記（1923-46）の一部を精読する。</p> <p>河野村は1944年に「満洲国」への分村移民が行われた農村として知られる。本演習ではその背景も含め、当時の日本の社会状況や人々の意識について、この希有な史料から考察する。</p> <p>また場合により、関連する学術書を輪読する。</p> <p>授業は参加者の報告と討論によって進行する（全15回）。</p>											
[履修要件]											
前の学期（2020年度後期）の演習IIで「胡桃沢盛日記」の1923年1月～1926年3月を読了しており、今回はその続きから読み進めるが、もちろん新規の参加を歓迎する。											
[成績評価の方法・観点]											
報告（50%）と討論への参加状況（50%）によって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
報告者は入念な史料読解と、先行研究・関連史料等の調査を経て報告を行うこと。報告者以外の参加者も必ず、史料を全て読了した上で、事前に質問や論点を提出すること。											
（その他（オフィスアワー等））											
初回のガイダンスで報告の分担を決めるので、必ず参加すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET37 78944 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習II） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		立命館大学衣笠総合研究機構 井上 明人 客員研究員			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		コンピュータ・ゲーム研究の現在									
【授業の概要・目的】											
<p>コンピュータ・ゲームの文化的隆盛を背景として、コンピュータ・ゲームについての人文学的な議論は、この20年で急速にすすんできた。一体、ゲームの何が重要な人文学の問題となりうるのか。近年の国際的なゲーム研究の動向を踏まえつつ、特に着目されている論点を紹介しつつ、共に議論をしていきたい。</p> <p>本講義はコンピュータ・ゲームに関わる研究とはいえ、人文学や批評に親しみのある者にとっては、ポストモダン論やジェンダー論、文化的抵抗など、どこかで聞いたことがあるであろう話を聞くことになるはずだ。欧米圏のゲーム研究の進展の半分近くは、こうした既存の文化研究の文脈を引き継いでいる。ただし、他方では、コンピュータ・ゲームという領域に独自の魅力を含む論点も数多く含んでいる。受講者にはその「差分」を味わいながら、議論に加わってもらいたいと思う。</p> <p>なお、授業の中で扱う文献は、なるべく日本語の文献を多くするが、中には邦訳のないものも含まれるため、若干の英語文献も含まれる。</p> <p>最終的な評価については、最終レポート（4000字以上）の内容を基に行う。</p> <p>また、最終レポートについて、事前に、どのような内容を予定しているかについて、途中で計画を提出してもらった上で、先行研究3点についての要約を提出してもらう。</p> <p>詳細な評価基準については、授業第1回目でループリック表の形で告知する。</p>											
【到達目標】											
<p>発展しつつあるゲーム研究の様々な論点を理解し、その視点から現在の文化状況についてメタ的な考察が展開できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.方法論としてのビデオゲーム研究 2.「ゲーム」とは何かをめぐる論争 3. ビデオゲームのメディア特性：ルールとフィクション 4.ポストモダンの社会論とビデオゲーム 5.メディアミックス 6.手続き的レトリック 7.抵抗の理論としてのビデオゲーム 8.アジールとしてのゲーム・カルチャー 9.メタ・ゲーム 10.シミュレーション 11.アイデンティティ 12.ジェンダーとサブカルチャー 13.語ることと当事者性 14.社会的活用 15.総括 											
----- メディア文化学（演習II）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習II）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

レポート（2回、各15点）
最終レポート（1回、70点）

【教科書】

必要な資料はパワーポイント、配布資料等で適宜提示する。

【参考書等】

（参考書）

松永伸司『ビデオゲームの美学』（慶應義塾大学出版会）ISBN:978-4-7664-2567-3（英語圏でのコンピュータ・ゲームに関する人文系研究を本格的にフォローしている唯一の和書です。）
イエスパー・ユール 著、松永伸司 訳『ハーフリアル 虚実のあいだのビデオゲーム』（ニューゲームズオーダー）（コンピュータ・ゲーム研究のなかで、近年もっとも参照される文献の一つです。）

文献ではなくゲームになるが

『My Child Lebensborn』

『Florence』

『Coming Out Simulator』

『this war of mine』

などのゲームに少し触れておいてもらえると、コンピュータ・ゲームの議論の広まりを少し理解してもらえらると思う。

【授業外学修（予習・復習）等】

最終レポートに関していきなりとりかかるのではなく、段階的に計画を練ってもらう必要があるので、授業の各段階で、文献調査（先行研究の読み込み）・仮説の設定・再調査のプロセスに時間を使ってもらいたい。

各回の授業で、あらかじめ触れておいてほしい作品等については指示する。

（その他（オフィスアワー等））

授業担当者への連絡はメールで受け付ける。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習ⅢA） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金3,4 隔週開講	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、専修に所属する学部3回生以上大学院生までが参加する中心的演習である。多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習を、自らの研究の進捗状況を報告し合い切磋琢磨する場として欲しい。</p> <p>隔週2コマ連続で開講し、毎回できるだけテーマが近い、本年度に卒論執筆を予定している学部生が報告を担当し、大学院生を中心としたコメンテータからのコメントの後、全体でディスカッションを行う。次年度卒論執筆を行う予定の学部生は最終回に研究テーマを発表するセッションを設ける。</p> <p>必修であるこの演習では、院生は各分野の研究方法や先行研究についての知識を活かして、学部生の研究発表に対する適切なコメントができるように十分に準備して臨むことが期待されている。</p>											
【到達目標】											
メディア文化研究における多様な研究方法を自らのものとし、研究ディスカッションを適切に行えるようになることが目標である。											
【授業計画と内容】											
第1セッション（第1回、第2回の連続）		オリエンテーション、報告レジュメの書き方についてのワークショップ									
第2セッション（第3回、第4回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第3セッション（第5回、第6回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第4セッション（第7回、第8回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第5セッション（第9回、第10回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第6セッション（第11回、第12回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第7セッション（第13回、第14回の連続）		本年度卒論を書く予定の学部生2人から3人による報告とディスカッション									
第8セッション（第15回）		次年度卒論を執筆する予定の学部生全員による、それぞれの研究テーマに関するショートプレゼンテーション									
----- メディア文化学（演習ⅢA）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習ⅢA）(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点（報告を必ず担当することを必須とする。報告の内容と、ディスカッションへの貢献を評価する。）

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

参加者はあらかじめレジュメに目を通し、必要があれば言及されている作品等に目を通し、ディスカッションに備えること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイトおよびSlackを利用する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング											
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習ⅢB） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金3,4 隔週開講	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学研究の諸問題 B									
【授業の概要・目的】											
<p>本演習は、専修に所属する学部3回生以上大学院生までが参加する中心的演習である。多岐にわたるテーマを扱うメディア文化学であるが、「問題設定」を行い、それに関する「先行研究の検討」を経て、「研究テーマと研究方法」を定めて、研究に取り組むことは共通している。本演習を、自らの研究の進捗状況を報告し合い切磋琢磨する場として欲しい。</p> <p>隔週2コマ連続で開講し、毎回できるだけテーマが近い、本年度に卒論執筆を予定している学部生が報告を担当し、大学院生を中心としたコメンテータからのコメントの後、全体でディスカッションを行う。次年度卒論執筆を行う予定の学部生は最終回に研究テーマを発表するセッションを設ける。</p> <p>必修であるこの演習では、院生は各分野の研究方法や先行研究についての知識を活かして、学部生の研究発表に対する適切なコメントができるように十分に準備して臨むことが期待されている。</p>											
【到達目標】											
メディア文化研究における多様な研究方法を自らのものとし、研究ディスカッションを適切に行えるようになることが目標である。											
【授業計画と内容】											
第1セッション（第1回） 卒論執筆に関するWS 第2セッション（第2回、第3回の連続） 卒論中間報告 第3セッション（第4回、第5回の連続） 卒論中間報告 第4セッション（第6回、第7回の連続） 卒論中間報告 第5セッション（第8回、第9回の連続） 卒論中間報告 第6セッション（第10回、第11回の連続） 卒論中間報告 第7セッション（第12回、第13回の連続） 卒論中間報告 第15回 3回生による自らのテーマに沿った研究方法に関するショートプレゼンテーションのセッション											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（院生はコメンテータを必ず担当することを必須とし、コメントの内容とディスカッションへの貢献を評価する。）											
----- メディア文化学（演習ⅢB）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習III B）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者はあらかじめレジュメに目を通し、必要があれば言及されている作品等に目を通し、ディスカッションに備えること。

（その他（オフィスアワー等））

PandAおよびSlackを利用する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系50

科目ナンバリング		G-LET37 7M432 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 教授 塩出 浩之 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史学との合同大学院演習									
【授業の概要・目的】											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代文化に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。											
【到達目標】											
修士論文および博士論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
1回目: 修士論文・博士論文の予定テーマについて、各受講生がその要略を説明する。 2回目以降: 各回とも、1名の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、研究をさらに進める場合の課題を考える。 最終回: フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（報告に応じた適切な発言内容、および発言頻度。60点）とレポート（40点）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） なし											
【授業外学修（予習・復習）等】											
各自が個別報告するにあたって配布するレジュメについて、報告時間が1時間以内におさまる分量にすることと、報告の二日前までには完成させるよう、心がけなさい。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系51

科目ナンバリング		G-LET37 7M433 SJ36									
授業科目名 <英訳>		メディア文化学（演習） Media and Culture Studies (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	金2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		修士論文作成演習									
【授業の概要・目的】											
本演習はメディア文化学専修の院生が一堂に会し、お互いの研究内容を確認しあい切磋琢磨する場である。											
本演習では、修士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、議論構築、文献調査、聞き取り調査などについて、受講生に個別指導すると同時に、集団ディスカッションを通じて、現代を中心とするメディア文化に関わる多様な研究テーマに対する学知を深める。											
【到達目標】											
修士論文を作成する上で必要になる力を養う。											
【授業計画と内容】											
この演習は通年2単位であり、学部生と共通の演習ⅢA, B開講日に隔週で開講する。 現代史学と共通する演習を受講し発表する場合（歴史学的手法による研究の場合）は、本演習での発表担当は必須ではない。											
第1回 オリエンテーション（各自、修論予定テーマについてショートプレゼンテーションの準備をしてくること） 第2回以降 各回とも、1名の受講生が、修論予定テーマについて、研究の意義、先行研究、論旨、文献について報告する。その後、まず事前に決めたコメンテータによるコメントを行い、さらに全員によるディスカッションで当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進めるための課題を考える。 前期・後期の各最終回 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（前期1回、後期1回の発表内容、コメンテータとしてのコメント内容によって評価する。）											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- メディア文化学（演習）(2)へ続く -----											

メディア文化学（演習）(2)

【授業外学修（予習・復習）等】

報告レジュメは2日前までに提出すること。参加者はディスカッションに備えて、レジュメに目を通し、必要に応じて論じられている作品等を確認するなどしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

PandAのコースサイト、およびSlackにて連絡を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		米・中東関係の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>以前に比べると米・中東関係に関する関心は低下しているが、それが依然として現代の国際関係における重要なファクターであることは言うまでもない。また、米国の中東への関与はいままさにひとつの転換点に差しかかっているとされるが、米・中東関係の歴史については（当事国である米国においてさえ）正確に把握されているとは言い難い。この授業は特殊講義であるが、やや概説的に、19世紀から21世紀にかけての米国と中東の関係を概観する。</p>											
【到達目標】											
<p>米・中東関係の歴史的展開について、全体的な見通しを把握するとともに、重要な事件や転換点についての具体的な知識を獲得する。</p> <p>また、中東は近現代世界史の展開においては「周辺」地域のひとつであった。米・中東関係の展開についての知識を獲得することを通じて、近現代世界における「周辺」と「中核」の関係についての認識、およびそれを歴史学的に分析するためのアプローチを涵養する。</p>											
【授業計画と内容】											
以下の各項目について、それぞれ2～4回程度の授業で説明を進めていく。											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（1回） 2. 中東の近代：Western impactから主権国家システムの生成（2回） 3. 西側統合政策の展開と挫折（1950年代）（4回） 4. オフショア・バランスの時代（1960-80年代）（3回） 5. 覇権的政策の盛衰（1990年代以降）（4回） 6. まとめとフィードバック（1回） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポート											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

小野沢 透 『幻の同盟：冷戦初期アメリカの中東政策（上・下巻）』（名古屋大学出版会）
五十嵐武士 『アメリカ外交と21世紀の世界』（昭和堂）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に適宜指示する。

(その他（オフィスアワー等）)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 箱田 恵子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	木5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中国と仲裁裁判制度									
【授業の概要・目的】											
この講義では、清末中国における近代国際関係の受容に関し、とくに仲裁裁判の受容について解説する。いくつかの外交交渉を取り上げて、清末中国の対外関係を概観するとともに、とくに交渉における清朝側の国際法や仲裁裁判制度に対する認識・態度を中心に講義する。それにより、19世紀から20世紀初めにかけて発展してきた仲裁裁判制度を中国がどのように認識し受容したのか、仲裁裁判制度が中国を取り巻く国際関係にどのような影響を与えたのかを検討する。また、あわせて中国の仲裁裁判に対する態度を近代日本とも比較しながら検討し、現在の中国外交の特質を考える手がかりとする。											
【到達目標】											
受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解し、さらに近代に発達した仲裁裁判制度が中国と日本をはじめとする諸外国との外交関係にいかなる影響を与えたかについて学ぶことで、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1.近代における仲裁裁判制度の発展 2.東アジアの伝統的国際秩序 3.清朝の対外体制の変化と国際法の受容 4.華工虐待事件をめぐる対スペイン交渉 5.台湾出兵 6.琉球処分 7.清仏戦争 8.日清戦争と下関講和会議 9.清末中国の新聞雑誌にみる仲裁裁判観 10.20世紀初めにおける中国をめぐる国際関係の変化 11.2度のハーグ平和会議と中国 12.第二辰丸事件 13.満洲6懸案をめぐる日清交渉 14.マカオをめぐる対ポルトガル交渉 15.フィードバック 											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
毎回資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけでなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系54

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		同志社大学グローバル地域文化学部 石井 香江 准教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「男らしさ」から読み解く現代史									
【授業の概要・目的】											
<p>「男性」に注目し、かつ男女双方のジェンダーを統合する問題構成を持つ男性史の展開は、女性学・男性学の展開、社会史・女性史・ジェンダー史の展開とも並行して1990年代に欧米で本格化する。その後、コンネルが提示した「男らしさ」の複数性という見方や、ブルデューのハビトゥス概念を援用ないし批判する様々なテーマや地域・時代を対象にした実証研究が蓄積されている。本講義では、以上の展開をおさえた後、近現代ヨーロッパの「男らしさ」の核心をなす「名誉」・「闘い」・「暴力」（また、これらを支える「身体」）というテーマに主に着目し、ドイツ及び隣接する国々の現代史で「男らしさ」が果たした役割と帰結について考察したい。</p>											
【到達目標】											
<p>(1) 「男らしさ」という概念と男性史の持つ意義を女性史・ジェンダー史と関連付けて理解する。</p> <p>(2) ドイツ及び隣接する国々の現代史、特に「名誉」・「闘い」・「暴力」が全面化する戦争のメカニズムを、「男らしさ」という概念を軸に、かつ具体的な文字・図像史料を読み解くことを通じて理解する。</p> <p>(3) 近現代ヨーロッパの「男らしさ」の役割を理解することを通じて、現代社会のその他の個別の問題と、その背後に潜むジェンダー化された構造を探り当てる手がかりとする。</p>											
【授業計画と内容】											
各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．男らしさと名誉 2．身体の再発見 3．植民地状況における男らしさ 4．戦争と男らしさ 5．戦争とセクシュアリティ 6．戦後の男らしさの行方 											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点 20点（受講生はほぼ毎回コメントシートを提出）、中間レポート 20点、口頭報告 20点、期末レポート 40点（受講生は授業に関連するテーマの課題に対し、自分で調べた上で批評を書き、提出する）の4点で評価する。

[教科書]

授業中に配布するレジюмеと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）

A・コルバン / J-J・クルティエヌ / G・ヴィガレロ監修 『男らしさの歴史 男らしさの危機？ 20 - 21世紀』（藤原書店）ISBN:978-4-86578-131-1（特に購入する必要はありません。）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて、授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系55

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食をめぐる研究の方法											
2 明治大正期の食											
3 アジア太平洋戦争までの食											
4 戦後の食											
5 牛乳の歴史学											
6 品種改良の歴史学											
7 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
学期末にレポートを課す。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
ポール・ロバーツ 『食の終焉』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系56

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 藤原 辰史			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		食と農の現代史									
【授業の概要・目的】											
とりわけ20世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？ ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来を構築するためのヒントを考えることである。											
【到達目標】											
現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティブでとらえることができるようになる。											
【授業計画と内容】											
以下の課題について、1週から3週かけて講義する予定である（全15回）											
1 食糧戦争としての第一次世界大戦											
2 有機農業の歴史											
3 毒ガスと農薬の歴史											
4 トラクターの歴史											
5 戦時期の農村女性たち											
6 食糧戦争としての第二次世界大戦											
7 フィードバック											
【履修要件】											
前期の授業を受講しているものとして授業を進める。											
【成績評価の方法・観点】											
講義の終わり頃に筆記試験を課す予定											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書）											
以下の本に目を通しておくと、講義の理解が深まる。											
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』											
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』											
藤原辰史 『ナチスのキッチン』											
藤原辰史 『カブラの冬』											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

ポール・ロバーツ 『食の終焉』
藤原辰史 『給食の歴史』

(関連URL)

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/>

[授業外学修(予習・復習)等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		文化財と政治の近現代									
【授業の概要・目的】											
(授業の概要・目的) 2020年度はコロナ禍の影響で、授業内容を変更し、論文購読中心の授業となった。あらためて2021年度は、「文化財と政治」の問題を考える。現代の文化財は、富岡製糸場などの近代化遺産、「仁徳天皇陵古墳」の呼称で世界遺産登録された陵墓、「神武東遷」の日本遺産候補などの諸問題にみられるように、密接に政治と関わっている。 明治初期の神仏分離と美術品の海外流出に続き、1880年代には「伝統文化」保存の政策の中で、フェノロサや岡倉天心の文化財保護の活動がはじまる。立憲制の形成とともに帝室博物館、東京美術学校、文化財をめぐるジャンル・等級・時代区分が成立する。この間、国民に開かれた国宝・史跡・名勝・博物館などの文化財と、皇室に秘匿された御物・陵墓・離宮などの私的な財産の二つの文化財の体系が成立する。そして20世紀には社会と深く関わり、アジア・太平洋戦争に至る。こうした日本の文化財のあり様を、近現代を通じて考えてゆきたい。											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「文化財と政治の近現代」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・天皇制と文化財 ・明治維新と桜 ・廃仏毀釈と文化財の破壊 ・古都奈良・京都の明治維新 ・1880年代の古社寺や旧跡の保存 ・明治維新と陵墓 ・正倉院御物の成立 ・フェノロサ・岡倉天心の活動 ・ポストン美術館と日本美術 ・臨時全国宝物調査、古社寺保存法 ・「日本美術史」と文化財保護 ・帝室博物館と古都奈良・京都 ・史蹟名勝天然記念物保存法と社会改良 ・戦後改革と「史実と神話」の峻別 ・世界遺産と陵墓問題 											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

高木博志 『近代天皇制の文化史的研究』(校倉書房、1997年)

高木博志 『近代天皇制と古都』(岩波書店、2006年)

[授業外学修(予習・復習)等]

京都において、「文化財と政治の近現代」に関わる巡見を希望者とする。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 高木 博志			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		古都奈良・京都の近代									
【授業の概要・目的】											
<p>明治維新から現代までの古都奈良・京都について考える。 古都奈良は、明治維新を通じて、「神武創業」の地としての神話的古代と、フェノロサ・岡倉天心によって発見されたギリシャに匹敵する歴史的古代の二重の意味を持つようになる。江戸時代まで田舎であった奈良が、三都・京都に匹敵する古都となり、20世紀には、修学旅行・観光の場となってゆくのは、ひとえに近現代における文化的・歴史の意味づけによるものであった。 古都京都は、平安遷都以来、天皇・朝廷を擁する都（みやこ）であったが、1869年の東京遷都をへて、1880年代には、近代化とともに、歴史都市として、「伝統」「日本文化」を打ち出してゆくこととなる。 二つの古都を比較する中で、日本近代における「伝統」の創造/連続について考えたい。</p>											
【到達目標】											
注のある形式の論文が作成できる。「古都奈良・京都の近代」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。											
【授業計画と内容】											
(授業計画と内容)											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 古都論の射程 ・ 明治維新と奈良 ・ フェノロサ・岡倉天心と日本美術史 ・ 帝室奈良博物館・帝室京都博物館 ・ 1900年パリ万国博覧会と奈良 ・ 神話的古代と奈良 ・ 洞部落の移転と天皇制 ・ 明治維新と京都 ・ 東京遷都と天皇制 ・ 1880年代の「旧慣」保存と京都 ・ 1895年、第4回内国勸業博覧会と平安遷都千百年記念祭 ・ 京都イメージと国風文化 ・ 京都イメージと桃山文化 ・ 古都奈良・京都と観光 ・ 世界史のなかの古都奈良・京都 											
以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義にかかわる自由研究のレポートによる。レポート作成について指導する。注のある形式。授業で指示。平常点も加味する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書等】

(参考書)

高木博志 『近代天皇制と古都』 (岩波書店、2006年)

【授業外学修(予習・復習)等】

「古都奈良・京都の近代」に関わる巡見を希望者で行う。

(その他(オフィスアワー等))

レポートの内容について個別相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の100年									
【授業の概要・目的】											
1920年代初頭に誕生した中国共産党は、この2021年に結党100周年を迎える。この間、コミンテルン指導下の革命政党から独立した巨大執政党へと大きく変貌し、その影響力がグローバルなものになる中、この党の100年の歩みを振り返り、党の組成や特性、および中国現代史、東アジア史に与えた影響について概説する。											
【到達目標】											
中国共産党の歴史を概述することによって、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史については、同党自身が折々に公的な歴史像を提示しているが、その歴史像がどのように形作られ、その時々々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 結党から1930年代半ばまでの中国共産党の活動概説 3. 長征（1930年代中期） 4. 抗日統一戦線政策（1930年代後期） 5. 西安事変（1936年） 6. 抗日戦争と第二次国共合作 7. 延安整風運動と毛沢東の指導権（1940年代前期） 8. 抗日戦争の終結と国共内戦の開始（1940年中期） 9. 国共内戦の帰趨と中華人民共和国の成立（1940年代後期） 10. 政権党としての出発と政党国家システムの始まり（1948-1950年） 11. 中ソ同盟への道と朝鮮戦争（1950-53年） 12. 朝鮮戦争の帰趨と国家建設（1953-1955年） 13. 毛沢東論、革命家として、政治家として、文化人として 14. 改造される人々 イデオロギーと運動に満ちた社会 15. フィードバック 											
【履修要件】											
中国共産党の100年を前期・後期にわけて連続的に講義するので、前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間に数回行う小テストと期末のレポートによって評価する。その割合はおおよそ、小テスト3割、期末レポート7割とする。

[教科書]

授業中に指示する
おりおりにプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 石川 禎浩			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国共産党の100年									
【授業の概要・目的】											
1920年代初頭に誕生した中国共産党は、この2021年に結党100周年を迎える。この間、コミンテルン指導下の革命政党から独立した巨大執政党へと大きく変貌し、その影響力がグローバルなものになる中、この党の100年の歩みを振り返り、党の組成や特性、および中国現代史、東アジア史に与えた影響について概説する。											
【到達目標】											
中国共産党の歴史を概述することによって、中国現代史の一重要側面を通史的に理解することを目指す。また、中国共産党の歴史については、同党自身が折々に公的な歴史像を提示しているが、その歴史像がどのように形作られ、その時々々の政治情勢によってどのような変化を見せたのかを合わせて解説することにより、歴史と歴史叙述の両側面から、重層的に中国現代史の展開を理解する。											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（中国共産党結党後30年の歩み） 2. 人民共和国建国初期の政策と社会（“単位”社会と個人管理） 3. 社会主義化への転換と過渡期の総路線（1950年代中期） 4. 反右派闘争と大躍進政策（1950年代後期） 5. 人民共和国における文化・芸術と政治 6. 人民共和国の外交（対ソ、対日、対米、対印）と冷戦体制 7. 毛沢東の国家建設構想と社会主義像（1960年代前半） 8. 文化大革命の発生（1960年代後半） 9. 文化大革命の展開と国内政局の混乱（1970年代前半） 10. 毛沢東の死と華国鋒体制 改革開放体制への萌芽（1970年代後半） 11. 改革開放と政治改革の頓挫（1980年代） 12. 改革開放の再起と国際秩序への参加（1990年代） 13. 革命的価値観からの離脱と中国ナショナリズム（2000年代） 14. 中国的スタンダードの確立と拡大（2010年代） 15. フィードバック 											
【履修要件】											
中国共産党の100年を前期・後期にわけて連続的に講義するので、前期・後期ともに履修することが望ましい。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業期間に数回行う小テストと期末のレポートによって評価する。その割合はおおよそ、小テスト3割、期末レポート7割とする。

[教科書]

おりおりにプリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系61

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 城山 智子			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		近代中国の対外経済									
[授業の概要・目的]											
19世紀前半の五港開港以降、中国はそれまでの互市・朝貢とは異なる制度的枠組みの下で、世界経済とより緊密に結びつくこととなった。本講義では、それ以後20世紀半ばに至る百年余りの時期を中心に、中国をめぐるモノ・ヒト・カネの動きと、それを担った人々・組織を取り上げる。ローカルな取引に着目しつつ、アジア域内・外との関係から、中国経済に考察を加えることで、現地・国家・地域が交差する多元的な歴史像を探求する。											
[到達目標]											
1980年代の「アジア交易圏論」以来、日本の学界で蓄積されてきた19世紀前後のアジア地域経済に関する議論や、国際的なグローバル経済史研究を踏まえて、中国の社会経済について、長期的な比較史・関係史から考える視座を獲得する。中国海関資料や僑批（華僑の手紙・為替送金証明書）、銀行文書など、関係するデータや史料についても、理解を深める。											
[授業計画と内容]											
本講義は、主に以下4つのパートから構成される。 1、「長期の19世紀」と開港 2、貿易動向 3、出稼ぎ・移民 4、銀をめぐる問題											
[履修要件]											
歴史関係の科目を履修していることが望ましい。また、世界史・日本史の基本的な史実（高校レベル）については、習得していることを前提としている。											
[成績評価の方法・観点]											
学期末のレポート試験によって成績を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
授業中に指示する参考書や論文に目を通すこと。 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 佐藤 卓己			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		メディア文化学概論									
【授業の概要・目的】											
<p>メディア論を中心に、現代社会における情報とコミュニケーションの変容を考察する。とくに、「メディア論とはメディア史である」という立場から、歴史社会学的な視点を重視する。具体的には以下3つの「通説」あるいは「常識」の批判的検討を中心に考察し、メディア論的思考の理解を深める。</p> <p>「メディアは、人々のコミュニケーションを豊かにする。」</p> <p>マス・コミュニケーション研究が戦時動員体制という20世紀パラダイムにおいて構築されてきた経緯を検討する。</p> <p>「世論を重視する政治が、正しい民主主義である。」 大衆社会における「輿論の世論化」を検討し、「世論の輿論化」の可能性を探る。</p> <p>「日本のメディアは特殊である。」 現代日本のメディア環境を、世界システムの同時代性の中で比較検討し、現代社会への批判的視座の獲得を目指す。</p>											
【到達目標】											
メディア学の基本をなす比較メディア論の立場がどのように形成されたかを理解し、その視点からメディア史を吟味し、現代社会の合意形成システムを考察することができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1-2回 メディア社会とは何か 第3回 メディア史としてのコミュニケーション研究 第4回 メディア都市の成立 第5章 出版資本主義と近代精神 第6回 大衆新聞の成立 第7回 視覚人間の国民化 第8回 宣伝のシステム化と動員のメディア 第9回 ラジオとファシスト的公共性 第10回 トーキー映画と総力戦体制 第11回 テレビによるシステム統合 第12回 情報化の未来史 第13回 脱・情報社会へ 第14回 総論・試験 第15回 フィードバック											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

【履修要件】

メディアに関心があり、情報への感度が高いこと。

【成績評価の方法・観点】

定期試験（80％）とコメントペーパーなど（20％）。定期試験の方式については、講義中に説明する。

【教科書】

佐藤卓己『現代メディア史 新版』（岩波テキストブックス・1998）ISBN: 9784000289207（中国からの留学生は佐藤卓己『現代伝媒史』（北京大学世界伝播学經典教材中文版・ただし旧版の翻訳）北京大学出版社2004年を利用してよい。）
佐藤卓己『メディア論の名著30』（ちくま新書）ISBN:9784480073525（メディア文化学を学ぶ上で基本となる文献を紹介、解説している。）

【参考書等】

（参考書）

佐藤卓己『ファシスト的公共性 総力戦体制のメディア学』（岩波書店）ISBN:9784000612609（システム社会化とメディア研究の成立史を論じた著作。）
佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）ISBN: 9784000283229（メディア史＝メディア論の発想法について、参照のこと。）
佐藤卓己『流言のメディア史』（岩波新書）ISBN:9784004317647（現代のメディア・リテラシーの実践のために。）
佐藤卓己『メディア社会』（岩波新書）ISBN:9784004310228（サブ・テキストとして一般向けに書かれたもの）

（関連URL）

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/satolab/>(メディア文化論研究室HP)
<https://satotakumi60.wixsite.com/mysite>(佐藤卓己研究室)

【授業外学修（予習・復習）等】

テキスト『現代メディア史 新版』の各章、第一節、第二節を読んで授業に出席すること。各メディアについて『メディア論の名著30』の関連文献を中心に、発展的な学習を心掛けること。

（その他（オフィスアワー等））

メディア文化学の初学者は、佐藤卓己『メディア社会 現代を読む視点』（岩波新書）を、歴史学の初学者は、佐藤卓己『ヒューマニティーズ 歴史学』（岩波書店）を、事前に読んでおくことが望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系63

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相									
【授業の概要・目的】											
この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。											
【到達目標】											
中央アジアの近現代（帝政ロシア支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。											
【授業計画と内容】											
以下の予定に従い、講義を行う。											
<ul style="list-style-type: none"> * 旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週） * 民族史の記述（第3-4週） * ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週） * 独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週） * 評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週） * 新しい正史（第13-14週） * まとめ（第15週） 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

宇山智彦(編著) 『中央アジアを知るための60章』 (明石書店) ISBN:978-4-7503-3137-9 (中央アジア研究の入門書)

小松久男 『革命の中央アジア あるジャディードの肖像』 (東京大学出版会) ISBN:3-13-025027-2 (ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献)

宇山智彦 『「カザフ民族史再考 歴史記述の問題によせて」 『地域研究論集』 Vol.2, No. 1 (1999)』 (国立民族学博物館地域研究企画交流センター) (ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文)

帯谷知可 『「英雄の復活 現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」 酒井啓子・臼杵陽編 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034185-5 (ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文)

帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』 (明石書店) ISBN:9784750346373 (ウズベキスタン地域研究の入門書)

[授業外学修(予習・復習)等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

(その他(オフィスアワー等))

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。連絡の必要がある場合はこちらへ [obiya\[at\]cseas.kyoto-u.ac.jp](mailto:obiya[at]cseas.kyoto-u.ac.jp) ([AT]を@に替えてください)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系64

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ポスト・ブ렉シット時代の「イギリス」史像(1)									
【授業の概要・目的】											
<p>ブ렉シットはイギリスの先行きを不透明にするだけでなく、イギリスの過去の理解(イギリス史像)の再考を促す契機となりうる。「ヨーロッパの中のイギリス」についての否定的な評価には、イギリス史像全般の再構築を要請するだけのインパクトがある。その際、「イギリス」は少なくともイングランド、ブリテン、UK、帝国、という4つのレベルで把握される必要がある。これら4つのレベルの「イギリス」にとってヨーロッパとはなんだったのか、を振り返るため、前期・後期の授業とともに、イングランドが「属領」だった時代からポスト・ブ렉シット時代までを射程に収める1000年のスパンをとる。</p>											
【到達目標】											
<p>11世紀から今日に至る長いパースペクティブの下で歴史を把握する能力を身に着けること。「イギリス」史をヨーロッパ大陸とのインタラクションの中で理解する能力を身に着けること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>(1)ブ렉シットと「イギリス」史(1回) (2)「衰退」と「逆転」の語り(2回) (3)「偉大さ」からの転落(2回) (4)「脱工業化」と「衰退」(1回) (5)イングランドからブリテンへ(2回) (6)UKの形成(2回) (7)UKの統合力(1回) (8)UKの再編(2回) (9)UKの解体?(2回)</p> <p>授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。</p>											
【履修要件】											
前期・後期の授業を通年で受講すること。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受験参考書のレベルで構わないので、1066年以降の「イギリス」史の流れについて最低限の知識を備えたうえで受講すること。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系65

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 教授 小関 隆			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ポスト・ブ렉シット時代の「イギリス」史像(2)									
【授業の概要・目的】											
前期の授業から引き続き、ポスト・ブ렉シット時代の「イギリス」史像を考える。後期の授業では、特に帝国としての「イギリス」、「イギリス」にとってのヨーロッパ、という2つのテーマを集中的に検討する。前期の授業と同じく、1066年を起点とする長いパースペクティブをとる。											
【到達目標】											
前期と同じ。11世紀から今日に至る長いパースペクティブの下で歴史を把握する能力を身に着けること。「イギリス」史をヨーロッパ大陸とのインタラクションの中で理解する能力を身に着けること。											
【授業計画と内容】											
(1) 奴隷制の帝国(2回) (2) 「自由」の帝国(2回) (3) 「アングロスフィア」(1回) (4) 帝国と移民(2回) (5) 「属領」時代のヨーロッパ(1回) (6) ヨーロッパと「島国」(1回) (7) フランス、ドイツ、アメリカ(2回) (8) ヨーロッパ統合へのスタンス(2回) (9) EU離脱(1回) (10) 総括(1回)											
授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。											
【履修要件】											
前期の授業を受講していることを条件とする。											
【成績評価の方法・観点】											
学期末のレポートによって評価する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

受験参考書のレベルで構わないので、1066年以降の「イギリス」史の流れについて最低限の知識を備えたうえで受講すること。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア帝国とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下のザカフカス(トランスコーカサス)史を、グルジア(ジョージア)中心に概観する。</p> <p>ロシア人がチェチェン人やグルジア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。ザカフカスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出し、それはグルジア人などの現地住民にもフィードバックされた。治安の悪さで悪名高いザカフカスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とグルジア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。</p>											
【到達目標】											
ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。											
【授業計画と内容】											
第1回：イントロダクション 第2,3回：「半アジア人」 第4,5回：露土戦争 第6,7回：「ムスリム・グルジア人」の文字と宗教 第8,9回：油田とマンガン鉱山 第10,11回：マルクス主義サークル 第12,13回：義賊と革命 第14回：1905年 第15回：おわりに											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは、月曜3限とする。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系67

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 伊藤 順二			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		ロシア革命とジョージア(グルジア)									
【授業の概要・目的】											
<p>南カフカスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージア(グルジア)の社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南カフカスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。</p>											
【到達目標】											
<p>第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：イントロダクション 第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命 第4,5回：バルカン戦争と戦争準備 第6回：敵性国民としてのドイツ人 第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」 第9,10回：社会主義者の戦争 第11回：ロシア革命とカフカス 第12回：ジョージア民主共和国の成立 第13,14回：民主共和国と地域問題 第15回：おわりに</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。</p>											
【教科書】											
<p>プリントを配布する。</p>											
【参考書等】											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
【授業外学修(予習・復習)等】											
<p>各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは、月曜3限とする。</p>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 森下 達			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		特撮映画論									
【授業の概要・目的】											
<p>現代日本では、マンガやアニメ、ヒーロー番組といった「オタク文化」を、多くの人びとが政治や社会から切れたものとして受容している。そのような領域がいかんして形成されたのかを、『ゴジラ』（1954年）をはじめとする特撮映画作品群と、それらの映画の受容から考えていく。特撮映画こそは、文学者・文芸評論家からSF作家、いわゆる「オタク第一世代」に至るまでさまざまな層の注目を集めたジャンルであり、その受容からは、戦後日本における批評のモードの変化をある程度見て取ることができるだろう。</p> <p>なお、授業内では、実際に映像作品を視聴した上で議論を行っていく。小説作品や批評・論考を事前に読んでもらった上で授業に臨むことを求める場合もある。積極的な授業参加を望みたい。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・特撮映画ジャンルの歴史を学び、ポピュラー・カルチャーを研究する上での基礎知識を獲得する。 ・ポピュラー・カルチャー批評の流れを学び、自分なりの視点で作品や文化現象を語れるようになる。 ・ポピュラー・カルチャー作品と社会との関わりを理解し、自分自身の文化との関わり方を見直すことで、文化への感受性を高めていく。 											
【授業計画と内容】											
<p>第1回 ガイダンス：TV以前と以後</p> <p>第2回～3回 戦後日本におけるSFジャンルの定着：TVメディアとの関係から</p> <p>第4回～第7回 「空想科学映画」という価値観：『ゴジラ』（1954年）・『空の大怪獣 ラドン』（1956年）</p> <p>第8回～第11回 文学者・文芸評論家と特撮映画：『地球防衛軍』（1957年）・『モスラ』（1961年）</p> <p>第12回～第14回 SFから「オタク」へ：キャラクター消費という問題</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>開講日時については、5月中にKULASISを通して連絡する予定である。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（30％）およびレポート（70％）により評価する。
なお、6回以上欠席したのものには単位を与えないので、注意すること。もちろん、すべての授業に出席することが望ましいのはいうまでもない。

[教科書]

使用しない
授業レジユメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

森下達 『怪獣から読む戦後ポピュラー・カルチャー 特撮映画・SFジャンル形成史』（青弓社、2016年）ISBN:978-4-7872-7392-5（授業者自身の著作であり、授業内容と密接に関連する。）

（関連URL）

<https://www.seikyusha.co.jp/bd/isbn/9784787273925/>(上記書籍の情報が記載されている出版社のHP。)

[授業外学修（予習・復習）等]

シラバスに記してある特撮映画作品について、スタッフやあらすじなど基本的な情報を把握しておくこと。また、『ゴジラ』（1954年）については膨大な数の批評・論考が書かれているので、ひとつだけでもそれに触れ、この映画がどのように論じられているのかを自分なりに考えておくことが望ましい。

それ以外の予習・復習については、授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

集中講義なので「オフィスアワー」は特に設けません。質問等がある方はその場で訊ねるようにしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		非常勤講師 水谷 智			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	木4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		「間-帝国史」の視点からみた日・英帝国における植民地支配と抵抗									
【授業の概要・目的】											
この講義の目的は、異なる帝国間の同時代的な関係性を歴史化する「間-帝国史」(trans-imperial history)の視座から、植民地主義とそれへの抵抗の歴史を再考することである。事例として、イギリス帝国と日本帝国およびそれぞれの植民地(特にエジプト・インドと台湾・朝鮮)をとりあげ、議論する。各テーマに2週を割り当て、ディスカッションをとり入れたインタラクティブな授業をおこなう。											
【到達目標】											
帝国史研究および植民地研究についての知識を深めつつ、「間-帝国史」の視点から近代の歴史を問うことができるようになる。											
【授業計画と内容】											
間-帝国史(trans-imperial history)の理論と方法【第1~2週】											
第1部 間-帝國的協力と植民地統治											
台湾の植民地化の始まりとイギリス人顧問官・W.M. カークウッド【第3~4週】											
朝鮮の保護国化とモデルとしてのイギリスのエジプト支配【第5~6週】											
植民政策の「国際標準」と日本帝国【第7~8週】											
第2部 反植民地主義と間-帝國的緊張											
対立する帝国と独立運動 日本人にとってのインドとイギリス人にとっての朝鮮【第9~10週】											
「反植民地主義的な帝国」(?) 汎アジア主義者と日本の朝鮮統治【第11~12週】											
被支配経験と感情的連帯: インド・朝鮮における抵抗と相互連関【第13~14週】											
総括【第15週】											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

英語の学術論文を参考文献として提示することがあるが、読む努力をいとわない人が受講者として望ましい。

[成績評価の方法・観点]

ディスカッションへの参加(30点)とレポート(70点)。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

(関連URL)

<https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.1dd6f580b031cf12.html>(「間-帝国史」に関するダウンロード可能な拙論が何本かあります。関心のある人は目を通してみてください。)

[授業外学修(予習・復習)等]

あらかじめ配付された参考文献はできるだけ読む努力をすること。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系70

科目ナンバリング		G-LET35 68433 LJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 福家 崇洋			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		日本社会運動史									
【授業の概要・目的】											
日本の社会運動史について講義を行う。時期は、明治期から敗戦後までである。本講義の目的は、近現代日本の社会運動に関する通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想が果たした役割を理解することを目指している。本講義への参加によって、日本近現代史をより複合的・重層的に捉える視点を育んでくれるとありがたい。											
【到達目標】											
日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。											
【授業計画と内容】											
1 ガイダンス 2 自由民権運動 3 「初期社会主義」と労働運動 4 アジア主義と対外硬運動 5 2つの戦争と「大正デモクラシー」 6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動 7 国家改造運動 8 無産政党と社会民主主義の形成 9 総力戦とクーデター未遂事件 10 満洲事変と「転向」 国家社会主義の台頭 11 昭和維新運動 テロと叛乱未遂 12 天皇機関説事件と宗教運動 13 反ファシズム統一戦線 14 占領下の民主化運動 15 まとめ なお、授業の進行速度により内容に変更あり											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業中の小レポートと期末レポート、平常点等により総合的に判断する。											
----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

各回のテーマに関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系71

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 村上 衛			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		在中国イギリス領事報告を読む									
【授業の概要・目的】											
史料についての基本的な知識を得たうえで、中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって、イギリス人などの外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。											
【到達目標】											
英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。											
【授業計画と内容】											
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告(FO228)を精読する。具体的には、内地流通に関わる商業紛争など、主として経済に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料は非常に細かい内容のものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。 初回と2回目の授業では史料についての解説を行い、3回～14回は担当者を決めて史料を読み進めていく。15回は読み進めた部分までの内容を振り返る。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点。											
【教科書】											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
【参考書等】											
(参考書) 岡本隆司・吉澤誠一郎編 『近代中国研究入門』(東京大学出版会) ISBN:4130220241											
【授業外学修(予習・復習)等】											
指定部分の日本語訳											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、英文の手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主として部下(領事)から上司(公使)への報告であり、大部分はそれほど難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系72

科目ナンバリング	G-LET35 78448 SJ38										
授業科目名 <英訳>	現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)					担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 村上 衛				
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目	在中国イギリス領事報告を読む										
[授業の概要・目的]											
中国近代の社会・経済に関する英文史料を精読する。英文史料を読むことによって、イギリス人などの外からの目を利用しつつ、中国近代社会経済史に対する理解を深める。											
[到達目標]											
英文史料の扱い方、長所・短所などを理解し、中国近代史を研究するにあたって利用する史料の可能性を広げ、また史料操作能力の向上を図る。											
[授業計画と内容]											
イギリス外交文書のうち、在中国イギリス領事の報告(FO228)を精読する。具体的には、中国における華人関係の紛争など、主として社会に関わる紛争を取り上げる。必要に応じてFO228に含まれている英文史料に対応する漢文史料も読む。なお、史料は非常に細かい内容のものが多いため、講義形式の解説を加え、史料を中国近代史の中に位置づけていく。 初回は史料についての解説を行い、2回～14回は担当者を決めて史料を読み進めていく。15回は読み進めた部分までの内容を振り返る。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点											
[教科書]											
使用しない テキストはコピーして授業の際に配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 岡本隆司・吉澤誠一郎編 『近代中国研究入門』(東京大学出版会) ISBN:4130220241											
[授業外学修(予習・復習)等]											
指定部分の日本語訳											
(その他(オフィスアワー等))											
毎回、テキストの音読、読解を輪番で課すため、英文の手書き文書に慣れるまでは予習に時間を要することになるだろう。ただし、扱う英文は主として部下(領事)から上司(公使)への報告であり、大部分はそれほど難解なものではないから、積極的な参加を期待したい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		アメリカ外交文書演習									
【授業の概要・目的】											
現代史を考える上で、アメリカ合衆国の動向は（好悪にかかわらず）きわめて重要である。さいわい、そのアメリカの重要な外交文書の重要なものは、刊本などの形で公刊されており、比較的容易にアクセスできる。（これは、アメリカの尊敬すべき文化のひとつでもある。）本演習では、アメリカの対外政策の形成や対外的行動の実際を、公刊されたアメリカ外交文書集に収録された一次史料を読解することを通じて分析する。											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ外交文書の種類や所在について基本的な知識を修得し、自らの関心に沿って文書を探索できるようになる。 ・アメリカ外交文書の読み方や研究への活用の仕方を修得する。 ・上記を通じて、一次史料から歴史を考察し歴史的分析を展開するための基本的な知識と技術（そして願わくはセンス）を修得する。 											
【授業計画と内容】											
<p>下記のアメリカ外交文書集の日本関係のセクションを読み進めていく。 Foreign Relations of the United States, 1952-1954, Volume 14, Part 2: China and Japan. 全15回の授業で、毎回、10ページをめどに読み進めていく。 具体的な授業の進め方や報告方法は、受講者の人数や顔ぶれを見て決定する。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
期末試験は行わず、平常点で評価する。											
【教科書】											
<p>上記のアメリカ外交文書集を各自で準備すること。 刊本は、文学部を含め、学内に複数の所蔵あり。ウィスコンシン大デジタル・アーカイブでPDF版を、アメリカ国務省歴史課（Office of Historian, Department of State）でテキスト版を、それぞれ無料で入手可能。</p>											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

毎回10ページ程度読み進めるので、受講者は全員当該箇所を読んでおくこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系74

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		日本近現代史料演習									
[授業の概要・目的]											
日本近現代史の一次史料を読む。史料の批判的読解という実践を通じて研究の基礎を身につけ、同時に日本近現代史への理解を深めるのが目的である。											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・史料の批判的読解に基づいて過去を再構成するという最も基礎的なトレーニングを通じて、日本近現代史研究の手法を体得する。 ・過去への問いをもって史料を読み、入念な調査と考察を通じて、その問いを歴史学的な論点へと発展させられるようになる。 ・史料から知ることができる過去は本来的に限られていることを理解し、史料から何が言えるか・言えないかを、根拠に基づいて論じられるようになる。 ・近現代の日本を世界史的視野から捉えられるようになる。 											
[授業計画と内容]											
<p>1905年に長野県下伊那郡河野村の地主の家に生まれ、戦時中には村長も務めた胡桃沢盛が残した日記(1923-46)の一部を精読する。</p> <p>河野村は1944年に「満洲国」への分村移民が行われた農村として知られる。本演習ではその背景も含め、当時の日本の社会状況や人々の意識について、この希有な史料から考察する。</p> <p>また場合により、関連する学術書を輪読する。</p> <p>授業は参加者の報告と討論によって進行する(全15回)。</p>											
[履修要件]											
前の学期(2020年度後期)の演習IIで「胡桃沢盛日記」の1923年1月～1926年3月を読了しており、今回はその続きから読み進めるが、もちろん新規の参加を歓迎する。											
[成績評価の方法・観点]											
報告(50%)と討論への参加状況(50%)によって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
報告者は入念な史料読解と、先行研究・関連史料等の調査を経て報告を行うこと。報告者以外の参加者も必ず、史料を全て読了した上で、事前に質問や論点を提出すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
初回のガイダンスで報告の分担を決めるので、必ず参加すること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

現代文化学系75

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		国際日本文化研究センター 松田 利彦 研究部 教授			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	月3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		韓国語資料演習									
【授業の概要・目的】											
<p>朝鮮・韓国近現代史を研究テーマとする学生や、それ以外の分野の専攻でも韓国語の論文や資料を使いたいという学生のために、資料収集や学術論文の読解ができるようお手伝いをします。外国語の資料を使いこなすのは大変なことです。段階的にその技術を身につけられるように、授業は大きく3つのパートに分かれています。インターネットを含む朝鮮近代史関係資料探しのためのツールについて講義します。近年の植民地期朝鮮史研究の動向を理解できる概説的な論文(韓国語)を講読します。受講生の関心に応じて、朝鮮史に関わる学術論文や一次史料(韓国語)を精読します。昨年度は、論文「1920年代植民地朝鮮の日本語文学場で角逐する創作主体」「<ウリマルボン>と学校教育」「多文化家族支援法の問題点と改善方向」、「女性嫌悪談論の競合と共存」の抜粋を読みました。</p>											
【到達目標】											
<p>1) インターネットを含む朝鮮近代史関係史料の調べ方を身につけ、自ら資料探索ができるようになります。</p> <p>2) 韓国語論文を読むための基礎的な知識を得ることができます。</p> <p>3) 朝鮮近現代史についての一次史料を精読することによって、資料から歴史像を構築するトレーニングを積むことができます。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>1回目 朝鮮近代史についての概説講義</p> <p>2回目 朝鮮近代資料論の講義</p> <p>3～6回目 近年の植民地期朝鮮史研究の動向を論じた韓国語論文の講読</p> <p>7～15回目 韓国語で書かれた論文の精読。受講者の希望に応じて自叙伝・小説・日記・新聞などの一次史料の精読を行う場合もあります。</p>											
【履修要件】											
<p>韓国語の学習歴が求められます(受講生の韓国語レベルに合わせて授業内容は設定します)。与えられた資料の単なる日本語訳ではなく、論文中の歴史的イベントや資料の背景について自分で調べてもらって10分程度のミニ報告をしてもらうこともあります。</p>											
【成績評価の方法・観点】											
論文講読・資料精読の平常点により成績評価をおこないます。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

[参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

毎回プリントを配布して、文法事項や歴史的背景の説明、参考文献の紹介をします。

[授業外学修(予習・復習)等]

3回目以降の講読・精読については予習を必須とします。担当箇所は割り当てますが、自分の担当以外の部分も予習してくる意欲があればなおよいです。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		メディア文化という観点から再考する戦後日本の文学と映画									
【授業の概要・目的】											
<p>私たちの社会は、多様な方法で過去を記憶し、未来を夢見ている。過去を記憶し、未来を夢見るといふ行為を方向付けるものの一つとして、メディア文化を挙げることができる。マスメディアの報道だけでなく、広く共有された映画・マンガ・文学などは、それぞれの時代における集合的 記憶 や集合的 夢 について、その一端を分析する有効な手がかりになるだろう。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映画作品を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。取り上げるメディア文化は、一回目の授業で決める（以下の授業計画に挙げた作品はあくまで仮のものである）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る。</p>											
【到達目標】											
<p>近現代の日本社会における、戦争（戦場、原爆、空襲）やビックイベント（オリンピックや博覧会）、あるいは日常生活（夢見られた「豊かな生活」）などについて、集合的 記憶 と集合的 夢 の動態を理解する。</p> <p>具体的には、歴史学と社会学の先行研究の理解と、文献資料調査を通じて、批判的思考能力を養うとともに、個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～9回目：戦争の 記憶 ～『青い山脈』（小説・映画）、『二十四の瞳』（小説・映画）、『アメリカンスクール』（小説）、『独立愚連隊』（映画）、『飼育』（小説）、『この世界の片隅で』（マンガ、映画）、復員兵の存在が書き込まれた任侠映画など 10～11回目：原爆の 記憶 ～『原爆の子』（手記集と映画）、『黒い雨』（小説と映画）、『この世界の片隅で』（マンガと映画）など 12～13回目：自己実現の 夢 『魔女の宅急便』（映画）、『千と千尋の神隠し』（映画）、沢木耕太郎『深夜特急』など 14～14回目：豊かな生活の 夢 ～『クレヨンしんちゃん モーレツオトナ帝国の逆襲』（映画）と『ALWAYS 三丁目の夕日』（映画） 4 議論の総括（15回目） 											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点と期末のレポート

なお、平常点とは、授業内での個人報告（グループ報告）を指す。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

個人報告（グループ報告）の順番が決まったあとは、担当するメディア文化（映画・マンガ・文学）を分析するだけでなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのか、作者の来歴・思想を調査してもらう。

そのため、大学図書館での予習が必須である。詳細は授業で指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 78448 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 客員准教授 山本 昭宏			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		映像表現・映像資料からみる近現代の日本社会									
【授業の概要・目的】											
<p>映画・アニメーション・ドキュメンタリー、TVドラマなどの映像表現・資料は近現代社会を知るための資料でもある（近年は個人所蔵のホームビデオなどの資料的価値も高まっている）。この授業では、戦後日本社会に焦点を絞り、多様な映像表現・資料を時代別に取り上げることで、戦後史を理解する。映像表現から、従来言われている通説を理解すると同時に、通説に修正の余地を見出す批判的な読解と調査を求める。</p> <p>この授業では、まず二回目の授業で講師が特定の映像表現を取り上げてそれを分析してみせる。それを踏まえた上で、三回目以降は、受講生が順番に報告し・議論する。</p> <p>取り上げる映像表現・資料は、一回目の授業で決める（一回目に出られない者は二回目に決め。以下の授業計画に掲げた作品はあくまで仮のものである）。各自、個人報告をしてもらうが、受講生の数によってはグループ報告に変更することもあり得る</p>											
【到達目標】											
<p>この授業で求められていることは、映像表現・資料を選び、観るだけではない。選んだ映像について、先行研究・制作者たちの意図・当時の社会での評価を調べてもらう。批判的思考と資料の収集能力を養う。個人報告（グループ報告）を通して、プレゼンテーション能力を高める。加えて、共同討議で発言することで、「質問する力」や「コメントする力」を養う。したがって、「自分の報告が終われば出席しない」というような態度は認められない。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとテーマ設定、報告順の決定（1回目） 2 講師による講義 報告のポイント共有（2回目） 3 受講生による報告と共同討議 <ul style="list-style-type: none"> 3～8回目：戦後復興期 ～『生きていてよかった』、『忘れられた皇軍』、『佐久間ダム』、『ある機関助士』など 8～9回目：高度経済成長 ～『東京オリンピック』、『パルチザン前史』 10回目：70年代の公害 ～『水俣：患者さんとその世界』 11回目：80年代以降 『ゆきゆきて神軍』 12～14回目：90年代以降の現代 『A』、『選挙』、『いしづみ』 4 議論の総括（15回目） 											
【履修要件】											
特になし											
----- 現代史学(演習II) (2)へ続く -----											

現代史学(演習II) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点と期末レポートにより総合的に判断する。
なお、平常点は授業内の報告と共同討議でのコメントで評価する

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

個人報告(グループ報告)の順番が決まったあとは、担当する映像表現・資料を分析するだけではなく、その作品が当時の社会でどのように受け止められたのかを調査してもらう。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 7M415 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		民衆史研究と植民地史研究の接点を探る									
【授業の概要・目的】											
<p>学校教育の役割に着目しながら、民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。 色川大吉、鹿野政直、安丸良夫、ひろた・まさきと連なる民衆史研究の動向と、1990年代以降に勃興した帝国史研究の潮流はどのように総合されうるのだろうか。民衆史の側では鹿野による伊波普猷研究があり、晩年のひろたは台湾における竹久夢二について論じた。それでは、帝国史の側では民衆史のモチーフと方法論を咀嚼してきたのだろうか。 今年度は、昨年度に引き続いて藤井忠俊と鹿野政直の仕事を読み直す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・民衆史と帝国史にかかわる基本的な事項を理解しながら、自分自身をその一部として含むところの「現代史」について考察する能力を身につける。 ・構造的な強者と構造的な弱者との力関係の下で、学校教育がどのようなものでありうるのか。この力関係をどのように補強し、あるいはどのように解体・組み換えるものとなるのかを考察する。 ・同じテキストを読みながらも、個々人につきささってくる断片がどのように異なり、どのように重なるのかを確認しつつ、他者の視点をふまえて読みを深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>今年度前期は民衆史的な観点からする沖縄史を考えるために、鹿野政直俊の著作を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回～第7回 『藤井忠俊著作集1』(不二出版、2021年) 第8回～第14回 鹿野政直『沖縄の淵 伊波普猷とその時代』(岩波現代文庫。1998年)を読む。 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点...報告(50%)と授業内での発言(50%)。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された文献を事前に読んでくることが「予習」としての意味を持つ。

(その他(オフィスアワー等))

・新規の履修希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。事前に連絡のないままに、第1回目の授業を欠席したものの参加は認めない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-LET35 7M415 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習II) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 駒込 武			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。									
【授業の概要・目的】											
<p>学校教育の役割に着目しながら、民衆史研究と植民地史研究の接点を探る。 色川大吉、鹿野政直、安丸良夫、ひろた・まさきと連なる民衆史研究の動向と、1990年代以降に勃興した帝国史研究の潮流はどのように総合されうるのだろうか。民衆史の側では鹿野による伊波普猷研究があり、晩年のひろたは台湾における竹久夢二について論じた。それでは、帝国史の側では民衆史のモチーフと方法論を咀嚼してきたのだろうか。 今年度は、主に鹿野政直の仕事を読み直す。</p>											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・民衆史と帝国史にかかわる基本的な事項を理解しながら、自分自身をその一部として含むところの「現代史」について考察する能力を身につける。 ・構造的な強者と構造的な弱者との力関係の下で、学校教育がどのようなものでありうるのか。この力関係をどのように補強し、あるいはどのように解体・組み換えるものとなるのかを考察する。 ・同じテキストを読みながらも、個々人につきささってくる断片がどのように異なり、どのように重なるのかを確認しつつ、他者の視点をふまえて読みを深める。 											
【授業計画と内容】											
<p>今年度後期は民衆史的観点からの女性史について学ぶために、鹿野政直俊の著作を読む。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 『鹿野政直思想史論集 第2巻 女性 負荷されることの違和』。 第15回 フィードバック</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点...報告(50%)と授業内での発言(50%)。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 現代史学(演習II)(2)へ続く -----											

現代史学(演習II)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

指定された文献を事前に読んでくることが「予習」としての意味を持つ。

(その他(オフィスアワー等))

・新規の履修希望者は、かならず第1回目の授業よりも前に、駒込まで連絡すること。事前に連絡のないままに、第1回目の授業を欠席したものの参加は認めない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系80

科目ナンバリング		G-LET35 78452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習ⅢA) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習Ⅲは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は、報告担当者が自分の行っている、あるいは行おうとする研究について報告を行い、それをもとに教員と受講生が討論する形式で行う。報告者は、他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
<p>本演習に参加する大学院生は、よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで、より広い視野で研究対象を眺めることができ、自分の研究方法を点検するきっかけとなる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>セメスターの最初に、4月に大学院に進学した修士課程1回生が、自分の卒論をもとに研究発表を行う。（日程に余裕があれば、修士課程1回生以外の大学院生にも報告の機会を提供する。）</p> <p>前期（演習ⅢA）では、4回生（卒業予定者）はかならず1回、卒業論文の中間報告を行う。</p> <p>前期（演習ⅢA）では、3回生はかならず授業に参加し、可能な限り議論に参加する。（全15回）</p>											
【履修要件】											
現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加態度などの平常点によって評価する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 現代史学(演習ⅢA)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III A)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ、日々勉強を続けていなければ、よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて、自分の研究テーマをこえて、現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系81

科目ナンバリング		G-LET35 78452 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習IIIB) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 塩出 浩之			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2021・ 後期	曜時限	金5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		現代史研究の諸問題									
【授業の概要・目的】											
<p>演習IIIは、現代史学専修に所属する学部生（3、4回生）、大学院生、教員が参加し、互いに切磋琢磨し、学知を共有することをめざすフォーラムである。</p> <p>授業は、報告担当者が自分の行っている、あるいは行おうとする研究について報告を行い、それをもとに教員と受講生が討論する形式で行う。報告者は、他者に自己の研究をわかりやすく提示する努力をすることで、自己の研究について理解をさらに深めるとともに、様々な角度からの意見や助言を受けることで、自分の抱える問題点について解決の糸口を見出すことができる。</p> <p>また、他者の研究報告をきくことにより、広大な領域にわたる現代史研究の広がりを実感するとともに、現代世界についての理解を深め、また現代史研究の様々な方法論を学ぶことができる。</p>											
【到達目標】											
<p>この演習に参加する大学院生は、よき先輩として学部学生に研究上の助言ができるように努める。そうすることで、より広い視野で研究対象を眺めることができ、自分の研究方法を点検するきっかけとなる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>後期（演習IIIB）には、4回生（卒業予定者）はかならず1回、卒業論文の中間報告を行う。（通常授業では回数が足りぬことが多いため、11月祭期間中に補講を設定する。）</p> <p>後期（演習IIIB）には、3回生にもかならず1回、報告の機会を設ける。研究上の関心を持っていることや卒業論文で取り上げたいと考えているテーマについて、1年間の研究成果を報告する。</p> <p>大学院生は、学部生へのコメントや質問を通じて、みずからの研究上の考え方やスキルを向上させ、洗練させることを目指す。</p> <p>（全15回）</p>											
【履修要件】											
現代史学専修のホームルームのような位置づけの授業なので、可能な限り履修し出席すること。											
【成績評価の方法・観点】											
授業への参加態度などの平常点によって評価する。											
----- 現代史学(演習IIIB)(2)へ続く -----											

現代史学(演習III B)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

日頃から自分の研究に真摯にとりくみ、日々勉強を続けていなければ、よき学部生の模範となることはできない。さらにくわえて、自分の研究テーマをこえて、現代史についての幅広い知識を身につけるために多様な学習が必要とされる。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

現代文化学系82

科目ナンバリング		G-LET35 7M412 SJ38									
授業科目名 <英訳>		現代史学(演習) Contemporary History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名		文学研究科 教授 小野沢 透 文学研究科 教授 塩出 浩之 文学研究科 教授 喜多 千草 文学研究科 准教授 松永 伸司			
配当 学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・ 開講期	2021・ 通年	曜時限	火5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
題目		大学院演習									
[授業の概要・目的]											
修士論文および博士論文作成に向けて、テーマの設定、先行研究の評価、立論、文献・史料の実証的調査について、受講生が個別に報告する機会を設ける。報告をもとに、教員からの指導および受講生の集団ディスカッションを通じて、現代史に関わる多様な研究テーマに関する学知を深める。											
[到達目標]											
本演習に参加する大学院生は、それぞれ自分の研究テーマをもち、日々研究を続けていることを当然の前提としている。日々の研究成果は、それぞれの修士論文・博士論文として結実する。本演習は、研究成果の中間発表の場であり、自らの研究の到達点を客観視することを通じて次のステップを模索する重要な機会である。ここを通過することで、研究は着実に前進していく。修士課程の学生にとっては、修士論文の完成が到達目標であり、博士課程の学生については博士論文につながる学術論文の作成が到達目標となる。											
[授業計画と内容]											
各回とも、1名(場合によっては2名)の受講生が、修士論文・博士論文の予定テーマについて、研究の意義、先行研究、立論、実証研究の進捗状況について報告する。そのうえで全員によるディスカッションをおこない、当該報告の問題点を洗い出し、さらに研究を進める場合の課題を考える。 (全15回)											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
平常点とレポートで総合的に評価する。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) なし											
----- 現代史学(演習)(2)へ続く -----											

現代史学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

大学院生にとっては、毎日が研究の日々である。この演習は日々行われている研究の中間報告の場であって、この授業の予習や復習のために研究するのではない。

（その他（オフィスアワー等））

なし

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。